

# 学術情報センター ニュース

## 第39号目次

### 〈トピックス〉

- ・電子図書館システム-試行から本格サービスへ  
..... 2
- ・学術情報センター電子図書館サービス  
説明会の開催..... 3
- ・研究者・研究課題総覧(1996年度版)の刊行 ... 4
- ・学術雑誌総合目録1996年版の出版..... 5
- ・国際高等セミナーハウス..... 6
- ・総合目録データベースのサーバ移行を終えて  
..... 8
- ・猪瀬所長学士院会員に選定される.....12
- ・NACSISタイプロジェクトの国際共同研究会  
合が開かる.....13
- ・タイ王国における研修の実施.....14
- ・外国人研究員の紹介.....16
- ・「平成7年度学術情報データベース実態調査」  
結果をWWWで公開.....17
- ・タイ語環境に関する情報提供サーバの立ち上げ ...18
- ・「研究環境」および「研究動向」に関するアン  
ケート調査.....20

### 〈NACSISサービス案内〉

- ・学術情報センター電子図書館サービスの開始  
.....21
- ・「国立国会図書館洋書データベース」サー  
ビス開始.....24

- ・「平成8年度学術情報データベース実態調査」の回取  
結果と「データベース・ディレクトリ」の更新 .....25
- ・「平成8年度学術研究活動に関する調査」  
結果の概要.....26
- ・個別版CD-ROM提供サービスの平成9年度募集 ...27
- ・図書館蔵レコード件数2,500万件突破 .....28
- ・「WWW資源提供サービス」利用状況 .....29
- ・NACSIS-IR Q & A.....32
- ・失効した利用者番号での継続受付期限  
(6月27日) .....34
- ・接続ニュース.....34
- ・NACSIS-CATデータベース構築状況 .....35
- ・NACSIS-IRデータベース収納状況 .....36

### 〈教育・研修〉

- ・平成8年度教育研修事業報告.....38
- ・平成8年度学術情報センター・セミナー終了  
報告.....42
- ・平成8年度サービス利用説明会の報告.....43
- ・平成9年度教育研修事業実施予定.....44
- ・平成9年度サービス利用説明会開催予定...46

### 〈講演会など〉

- ・平成8年度学術情報センターシンポジウムの  
開催報告.....48

### 〈その他〉

- ・平成8年度会議などの報告.....52

学術情報センターニュースはNACSIS-BBS,Gopher,WWWでも見ることができます。  
URLは Gopher gopher://gopher.nacsis.ac.jp, WWW http://www.nacsis.ac.jp です。

## 電子図書館システム -試行から本格サービスへ-

学術情報センター教授  
あだち じゅん  
安達 淳

1997年の4月から学術情報センターの新しいサービスとして、電子図書館サービス(NACSIS-ELS, NACSIS Electronic Library Service)を始めます。1995年2月以来、既に二年間「試行」という位置付けで、限定された利用を提供してきました。ご存じない方は、是非<http://www.nacsis.ac.jp/>にあるサービスの説明をご覧ください。要は、学術雑誌の紙面をインターネットで直接利用者のPCに届けようというサービスです。

本稿を書いている2月時点では、4月からのサービスに向けて公開する新しいソフトウェアの準備、マニュアル等の作成、説明会の開催など、様々な作業に追われております。幸い、いくつかの学会から、4月からの事業への情報提供についてご協力も得られる見込みになり、広報なども広く行うべく、鋭意努力しているところです。

既に試行をしているのに、この度改めて「サービス開始」という理由は、一つには学術情報センター内での電子図書館サービスの位置づけによるものです。

- 利用の規則などを整備し、資格のある利用者にオープンに使用してもらえるようにする
- センター内の体制を、今までのプロジェクト型から事業向きに改める

などの体制整備にあります。また、

- 著作権処理の1998年4月からの実施をめざした関係機関との協議

が現在の最大の課題なのですが、サービスを開始することにより、学協会や大学図書館など、電子図書館事業でご協力いただかなければならない機関との話し合いを一層緻密に進めていく基盤ができることにもなります。

技術的には、特に目新しいことはないのですが、著作権使用料を合理的に集めつつ、学会活動等の活性化につながるような仕組みを実現しようとするところに、これからのシステム作りの妙味があります。この点で、従来の学術情報センターの事業にはない多面的な性格を持っているといえましょう。

1996年度は、電子図書館サービスの運用の詳細を立案・調整するため、主に学協会関係の方々とは会合を持ち、インターネットの上で著作権のある情報を提供する情報サービスとして機能させるために、制度作りの構想を練ってきました。

1997年度には、サービス開始とはいいますが、利用者から直接著作権使用料を取らずにオープンなサービスを提供し、利用動向分析のデータ採取を行います。また、データベースの内容を充実させていきます。なお、1997年度一年は、利用者の範囲を比較的限定的にし、大学等の教員、大学院生、図書館等の職員、電子図書館サービスに参加する学会の正会員などを対象としています。

実際の著作権使用料の徴収は1998年度から開始します。したがって、利用者の目から見

れば、1998年4月が本当の運用開始で、それまでは暫定的なサービスと見えることとなります。

1998年4月から実施するサービスの準備として、継続的に検討すべきものには、

- 利用に関し、利用資格の拡大および著作権使用料、徴収基準などの決定
- わが国の学協会以外の提供する文献の取り扱い
- 学会誌の適及的な電子化
- 分散型電子図書館システムの検討

など、多岐に渡る項目があります。

学術情報センターのNACISIS-ELSは、大学で計画されている電子図書館と性格が異なるものになると考えております。大学図書館の構想と学術情報センターのサービスとの運用面、技術面での関係や調整も重要な課題であると考えております。

利用者の皆様には、4月からサービスを開始するとともに、利用者として登録していただき、実際の利用に即して上記の各点についてのご意見・ご提言等、いただければ幸いです。(電子図書館サービスの内容などについては、21ページからの「学術情報センター電子図書館サービスの開始」をご覧ください)

## 学術情報センター電子図書館サービス説明会の開催

学術情報センターでは、電子図書館サービスの利用説明会を下記のとおり実施しました。平成9年度は、開催会場を増やし、全国での説明会を開催する計画です。

### 1. 会場など

会 場	日 時	回 次	参加人数
西日本会場 大阪大学医学部銀杏会館)	平成9年3月4日(火)	第1回	75名
		第2回	250名
東日本会場 (東京医科歯科大学5号館)	平成9年3月10日(月)	第1回	215名
		第2回	288名
参 加 人 数 合 計			828名

### 2. 説明内容

- (1) 学術情報センター電子図書館サービスの概要  
(研究開発部：根岸研究主幹，安達教授)
- (2) デモンストレーション
- (3) 利用手続き

(データベース課)

## 研究者・研究課題総覧（1996年度版）の刊行

学術情報センターで行っている「平成7年度学術研究活動に関する実態調査」の調査結果に基づき、日本のあらゆる学問分野の13万余の研究者の情報を網羅した標記出版物が刊行されました。

研究者の活動の動向を把握する資料としてご利用ください。

### 1 出版物の概要

#### 研究者・研究課題総覧（1996年度版）全9分冊

監修：文部省学術情報センター

編集：電気・電子情報学術振興財団

発行：紀伊國屋書店

セット価格：140,000円

A4判／総8,338頁／ISBN4-314-10124-5（セット）

刊行日：2月20日

### 2 掲載項目

研究者約13万名の①氏名、所属機関、②職名、③出身学校、④取得学位、⑤受賞学術賞、⑥所属学会、⑦研究課題、⑧研究業績（著書、発表論文、芸術系の活動、フィールドワーク）を掲載しています。

### 3 各分冊の構成

専門分野別に8分冊に分け、第9分冊として総合索引が付いています。

- |          |           |             |            |
|----------|-----------|-------------|------------|
| I. 人文科学  | II. 文学    | III. 法学・経済学 | IV. 理学・農学  |
| V. 工学    | VI. 医学（上） | VII. 医学（下）  | VIII. 複合領域 |
| IX. 総合索引 |           |             |            |

### 4 取り扱い書店

紀伊國屋書店 ホールセール部 03-3439-0128

### 5 本センターでの紹介ホームページ

<http://www.nacsis.ac.jp/ir/res/resbook.html>

（データベース課調査係）

## 学術雑誌総合目録1996年版の出版

1991年版和文編冊子体を改訂するものとして、この度、1996年版和文編を出版することとなりました。平成7年度からの編集開始以来、約2年間におよぶ全国調査・編集作業の成果であります。今回の編集の特徴としては、編集期間を従来に比べ約1年間短縮して速報性を高めたこと、非オンライン館向けにCD-ROM全国調査システムを本格的に導入して作業の電子化を図ったことがあげられます。また、前回和文編に比べて収録対象機関数が11%、書誌データ数が21%、所蔵データ数が27%増加しております。

無事、改訂を完了することができたのは、ひとえに全国調査にご協力いただいた各参加館のご尽力の賜物であります。ここにあらためてお礼申し上げます。

### 1. 和文編1996年版冊子体

規格	: A4版, 1部8分冊
総ページ数	: 約7,500ページ
収録対象機関数	: 780機関
収録データ数	: 基本書誌数 83,503件, 参照書誌数 35,845件 所蔵件数 1,774,286件
刊行時期	: 平成9年3月
予定価格	: 本体 80,000円(税別)
出版者	: 丸善株式会社

また、センターニュース37号で紹介したWindows対応のCD-ROM新システムの開発が完了しました。和文編と欧文編データの統合編CD-ROM版も、上記冊子体と同時期に出版する予定です。

### 2. 和文・欧文統合編1996年版CD-ROM

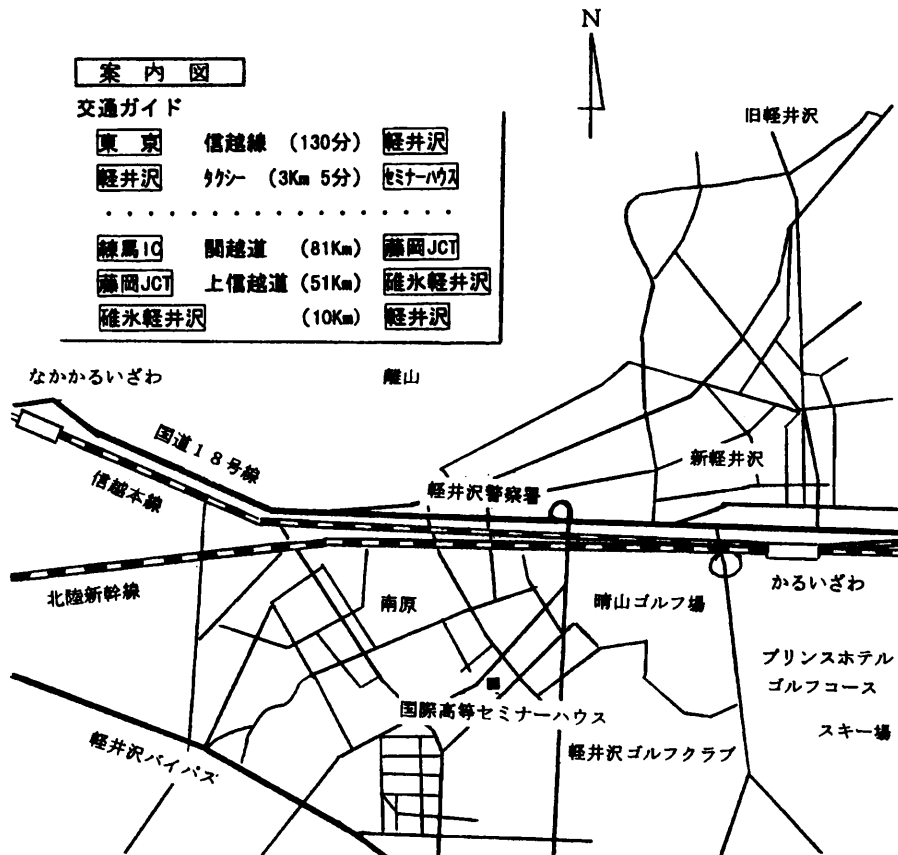
規格	: Windows3.1対応版 (Windows95, Windows-NTでも動作可能)
総データ数	: 約750MB (CD-ROM1枚)
収録データ数	: 雑誌数 約220千件, 所蔵件数 約3,000千件
刊行時期	: 平成9年3月
予定価格	: 本体 30,000円(税別)。冊子体購入者割引 10,000円(税別)
出版者	: 丸善株式会社

なお、和文編の編集完了に引き続き、平成9年度には欧文編の改訂のための全国調査を開始します。おむね和文編調査時と同様のスケジュールを予定しております。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

(目録情報課)

## 国際高等セミナーハウス

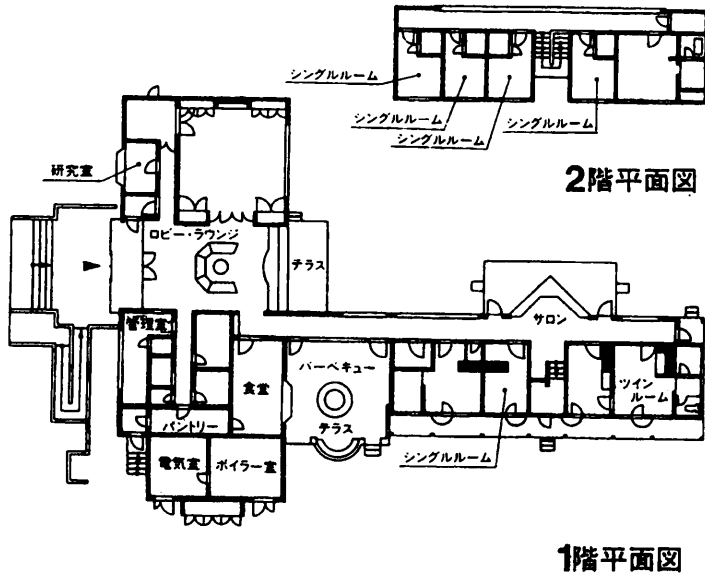
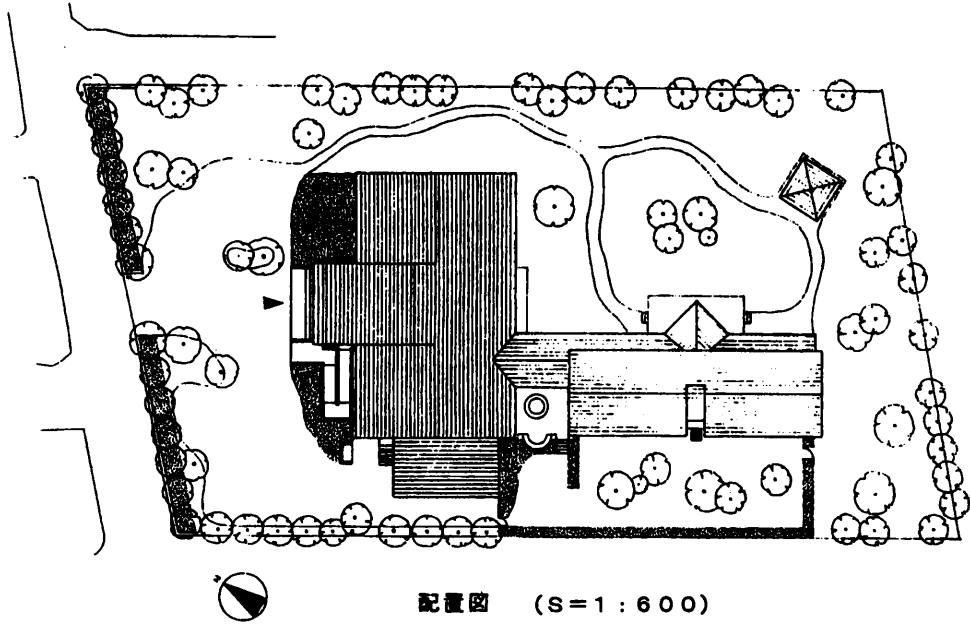
学術情報センター国際高等セミナーハウスは、国内外の学術情報分野の有識者や専門家によるトップセミナーや、学術情報に関する各種研修等に利用することを目的として設置されるものである。現在急ピッチで仕上げ工事が進められており、長野県軽井沢町にまもなく完成の予定である。



**所在地** 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字長倉往還南原1052-471

**敷地面積** 3,339㎡

**建物面積** 667㎡ (鉄筋コンクリート造一部木造2階建)



(会計課)

## 総合目録データベースのサーバ移行を終えて

### はじめに

平成9年1月7日午後6時、目録情報課事務室では大きな安堵の中、感慨深い気持ちにつつまれていた。構想から5年、総合目録データベースをサーバシステムに移行した目録システムが一度の通信障害はあったものの、なんとか無事一日の業務を終えた瞬間であった。以後、今日まで細かな問題点は残っているとはいえ、致命的な障害を発生することなしにシステムは順調に動いている。本稿では、ここまでのながい道のりをたどってみることにする。

### サーバ移行前夜

平成4年、次期目録システムの開発に着手した。昭和59年からサービスを開始した目録作成システムはサービス開始初期の困難な時期を乗り越え、総合目録データベースの登録件数は1,000万件近くを数え、さらに増加の一途をたどり、わが国唯一の書誌ユーティリティとして、各大学等の図書館システムにとってなくてはならない存在としての地位を確立していた。しかし、コンピュータと通信の発達により、新しい目録システムの登場が内的にも外的にも要請され始めていた。すなわち、パソコンやワークステーションといったコンピュータを研究者個人が所有するのが当たり前になり、ようやく実用化された学内LANやインターネットを利用した新しい図書館サービスが期待されるようになる中で、メインフレームやオフィスコンピュータによる既存の図書館システムでは十分対応が取れないといった外的要因。一方、センターシステムが採用するメインフレームについては将来的に費用対効果の面で大幅な改善が望めないこと、また、情報インフラとしてセンターが提供する学術情報ネットワークを構成するSINETとパケット交換網においては、図書館システムが利用するパケット交換網の利用が減少し、存続の是非が話題となるなどの内的要因であった。

現行目録システムは先に述べたように成功したシステムである。その改編は現行システムの開発とは違った意味で大変な事業であった。なぜなら、成功して当たり前であり、失敗すればセンターの存在意義が問われるのはもちろん、利用する図書館にとっても日常業務がストップしてしまうという重大な結果をもたらすものだからである。

### サーバ移行開始

新システムの検討は、研究開発部による新システムの基本的な考え方の策定から始まった。新システムはサーバとしてはメインフレームを廃し、UNIXをOSとするサーバシステム上に構築する。通信としてはSINETを利用することが原則として決定された。しかし、多くの異なるローカルシステムをかかえる目録システムの改編をスムーズに行うために、



二段構えの移行を行うことになった。第一段階としては、総合目録データベースとデータベース管理システムだけをサーバシステムに移行し、現行目録システムはそのまま動くようにする。第二段階では、新しい目録システムをサーバ上に作成し、二つの目録システムを併用する移行段階を設けて、最終的に新システムに切り替えるという方針である。

データベースをサーバシステムへ移行するための検討が開始された。ここでは主に2つの点が問題であった。一つはデータベースの構造の問題で、目録データベースに特有な繰り返しを含むデータを効率的に関係データベース上に実現する方法であり、今一つは通信のオーバーヘッドを最小にするためにメインフレーム上に存在する目録システムとサーバ上で実現するデータベース管理の切り口をどこに置くのかといった問題であった。問題解決のための研究開発プロジェクトが設けられ、実験が開始された。

平成7年には電子計算機システムの更新が行われ、新目録システム対応のサーバマシンとしてはSun SPARCcenter2000Eが、データベース管理システムとしてはOracleが採用された。平成7年12月末から翌年1月初めにかけて機器が導入され、いよいよ実施に向けて本格的な作業が開始された。このころから事務方も検討に加わり、実施時期を平成8年8月中旬と定め、各種ソフトウェアの開発は本格化した。プログラムの開発と平行して、OSやOracleの設定パラメータの調整によるシステムのチューニングや最適なサーバマシンのCPU数の検証、ハードディスクの構成方式による入出力速度の比較などのテストを繰り返していった。システムがほぼ完成した段階では目録情報課内でのプログラムのバグ出し、テストデータを使用したシミュレーションテストなどを行い、システムの機能面、性能面のテストを重ねていった。そして、最終的には多くの利用者による実際の操作に基づくオンライン負荷テストを利用者にお願いすることになった。この負荷テストは、利用者の日常業務をストップさせないために、月1回の業務休止日の第4木曜日の午後を実施することになった。

ところで、現行目録システムではアプリケーション設計上、Database access routine (通称DBACと呼んでいる)により、データベースをアクセスする機能をサーバアプリケーションからは独立させていることに特徴がある。このDBACを書き換えることにより、アプリケーションの大きな改編をすることなく既存のDBMSとは異なるDBMSに対応することが可能であった。この利点は現行システムで初期に採用したModel 204からXDMへ変更した際に既に証明されていたが、今回のサーバシステムへの移行に際しても、改めて証明されることになった。すなわち、新たに開発する新DBACの機能にシステムの差異をできるだけ吸収し、データベースの移行に伴うサーバアプリケーションの変更は極力避けることが可能であった。

さて、システムは大きく4つの面で反応速度が低下することが予想された。第1は、サーバCPUの処理能力の不足(CPUネックという)であり、第2はハードディスクの入出力速度(I/Oネック)である。第3はサーバのメモリ不足によるスワップの発生(メモリネ

ック)であり、最後は通信の負荷である。負荷テストを重ねる間、予想どおり、これらの問題が交代で現われ、その度に対策に追われることになった。

### オンライン負荷テスト

負荷テストは4月25日に第一回を実施した。この回のテストでは、国立大学のみをお願いし、最大同時接続端末数は397台であった。結果はほぼ満足のいくものであり、おおいに気を強くしたものであった。しかし、対象を全利用者に拡大して実施した5月のテストでは一挙に問題が噴出した。まず、各種のトレース情報を取得したために特定のハードディスクに書き込みが集中し、I/Oネックが発生した。また、致命的なプログラムのバグが顕在しプログラムが暴走しエラーが多発した。さらに利用者の接続が集中したため、メインフレーム側の通信装置が耐えられなくなり、異常終了をしてしまうというさんざんな結果であった。

トレース情報の書き込みハードディスクの分散によるI/Oネック対策、アプリケーションのバグ潰しと暴走防止機能の付加、地域別の接続時間の指定による接続の分散化を行い、万全の体制で臨んだかに見えた6月のテストでも、初めて行ったILLシステムの負荷が予想以上に高く、CPUネックによる処理の大幅な低下が認められた。また、メインフレームとサーバを結ぶ通信装置の異常終了が発生してしまった。

8月移行を目前に控え、緊急に通常業務を休止して行った7月12日のテストも失敗に終わった。このテストに当たっては、ILLデータベースの構造の見直し、プログラムロジックの変更によるCPUネックの解消を図ったのであるが、負荷テスト中最大の同時接続端末数1406台を数え、1200台を超えた辺りから著しい処理速度の低下に見舞われた。8月の移行実施を目前に控えた7月25日のテストにはプログラムロジックの変更による処理速度の向上に加え、これまで1台のサーバマシンで全てのデータベースを管理していた方式を改め、2台のサーバに処理を振り分ける分散型のデータベース構成とすることにより性能向上を図ったのであるが、テスト直前に分散データベースを管理する一方のサーバに故障が発生し、代りに用意したサーバの能力が低かったために分散化したことがかえって性能の低下をきたし、端末数600台にして急激な処理速度の低下をきたしてしまった。ことここにいたって、ついに8月移行を断念し、実施時期を年末に延期することを決定した。10月のテストまでは、システムの構成やプログラムロジックの変更によるシステムの性能向上を図ると同時に、シミュレーション実験によるシステムの安定性の調査に時間を費やした。年末までに本当に間に合うのだろうかという不安の一方、今度は絶対に失敗は許されないといった張り詰めた雰囲気であった。

そして、迎えた10月のテストでは、絶対大丈夫だと思われていたメモリネックによる問題が発生してしまった。メモリ上で処理を行うことによりCPUネックを解消しようとした方式が思わぬ問題を引き起こしてしまったのである。本当に移行は大丈夫なのかといった

声が利用者からも聞こえるようになってきた。さらに、11月のテストを控えて、大きな決断を迫られる状況も発生した。OSのバージョンアップをすることにより処理速度の大幅な改善が見られていたのであるが、長時間のシミュレーションの結果、このバージョンアップしたOSでは予期できないシステムの停止を招くことが判明したのである。年末の移行を控え、利用者の不安を消し、システムへの信頼を失わないためには、11月のテストではシステムを異常終了させることなく、さらに実用的な反応速度を出すことが絶対条件であった。夜を徹してのシミュレーションの結果、OSのバージョンアップは行わず、さらなるプログラムロジックの改良で処理速度をあげることが最終的に決定された。

そして祈るような気持ちで迎えた11月のテストで初めてシステムは落ちることなく、ほぼ実用的な処理速度を出すことができた。さらに確認のために行った12月のテストでも同様な結果が得られ、ようやく年末の移行を予定どおり実施することが決定された。

ところで、開発を終った今、マルチベンダーシステムに伴う難しさを実感している。障害の原因には、アプリケーション、DBMS、OS各々単独の問題の他に、それらの組み合わせによることも考えられて複雑であり、迅速な対応が困難な場合があった。実際、原因不明の障害のために、DBMSもOSも最新バージョンを採用できなかった。そのために、性能改善を度重なるプログラムロジックの改良に求めたり、予定していた運用方法の見直しをせざるを得なかった。

## 最後に

移行作業は10日程かかることが予想され、利用者には3年続きで年末の業務期間を短縮するというご迷惑をおかけすることになった。移行作業は順調に行われ、1月7日のサービス開始を迎えた。そして、冒頭のとおりデータベースの移行は成功のうちに終了した。

今回の移行に当たっては、利用者の皆様には通常業務でお忙しい中、度重なる負荷テストに毎回熱心に参加していただき、誠にありがとうございました。

次は、いよいよ新目録システムの立ち上げが待っています。この事業も成功させるようセンター職員はさらに努力してまいりますので、利用者の皆様にも、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。

(目録情報課)

## 猪瀬所長 学士院会員に選定される

日本学士院（藤田良雄院長）は、昨年12月12日の総会で、本センターの猪瀬所長を含む12名の新会員を選定した。猪瀬所長は、世界の情報通信網のデジタル化に画期的な役割を果たした功績を認められ、会員に選ばれたものである。

日本学士院は、学術上の功績が著しい研究者を優遇する文部省の機関で、会員の定員は150人、現員は今回の補充で136人となった。恩賜賞、学士院賞などを通じて学術研究の業績を顕彰するとともに、紀要の発行、外国アカデミーとの交流、会員等への研究補助、公開講演会の開催などの事業を行っている。

日本学士院の前身である東京学士会院は、フランスのアカデミー・フランセーズを模範に、1879年に創設され、初代会長は福沢諭吉であった。1906年に帝国学士院と改称されたが、戦後の1947年からは現在の名称となり、1956年以降は日本学士院法に基づき現在の組織形態で運営されている。

猪瀬所長ら新会員への選定状授与式は、12月19日に日本学士院で行われた。センターでは、猪瀬所長が学士院会員に選ばれたことを記念して講演会を2月7日に開催した。講演会では「より良き明日をめざして」と題して、敗戦の荒廃から立ち上がって、めざましい発展をとげた我が国の現状を踏まえて、これからの課題やセンターが今後果たすべき役割などについて、ユーモアを交えて約1時間にわたって猪瀬所長が講演した。講演会ののち、場所を移して、センター職員による祝賀会を開催し、和やかな歓談のあと、花束の贈呈などを行った。



記念講演会で講演中の猪瀬所長



祝賀会での猪瀬所長

## NACSISタイププロジェクトの国際共同研究会合が開かる

学術情報センター教授

小野 欽司

学術情報センターでは、タイの研究者との間でNACSISタイププロジェクトの国際共同研究を1994年度から進めているが、第7回会合が12月4日(木)～12月6日(金)にかけて以下の訪問者4名を迎えて学術情報センターで開催された。



Dr. VILAS Wuwongse (Professor, AIT)

Dr. YUNYONG Teng-Amnuay (Assistant Director, Chulalongkorn Univ.)

Mr. PASAKORN Prathombutr (NECTEC, Manager Network Technology Laboratory)

Ms. CHUTIPORN Anutariya (Assistant Researcher, AIT) (写真左から)

これは科学研究費国際共同研究「学術情報の国際交換に関する研究」(代表者小野欽司)の一環として行われたものである。

会合では、今回は特にSINET-ThaiSarn国際リンクの有効活用に焦点を絞り双方から以下のテーマについて発表およびデモがなされた。具体的な討議項目は次のとおりである。

- (1) 学術情報センターの紹介およびNACSIS-タイププロジェクトの概要
- (2) タイオンラインプロジェクトと海外モニターについて
- (3) ThaiSarnとSINETのネットワークの現状に関する情報交換
- (4) 上記ネットワークの高度利用に関する方策
- (5) AITの電子図書館プロジェクトの紹介と協力方法
- (6) 東京大学生産技術研究所とAIT間での衛星データ転送の可能性に関する情報交換
- (7) 遠隔教育に関する学術情報センターの設備紹介とその発展
- (8) まとめと将来の課題

学術情報センターからは研究開発部、事業部の関係者が出席し、また、個別テーマについては東京大学工学系研究科、東京大学生産技術研究所より参加、説明があった。本研究の第3年目最終年度にあたることから、第3回WAINSワークショップのタイでの開催についても意見交換した。

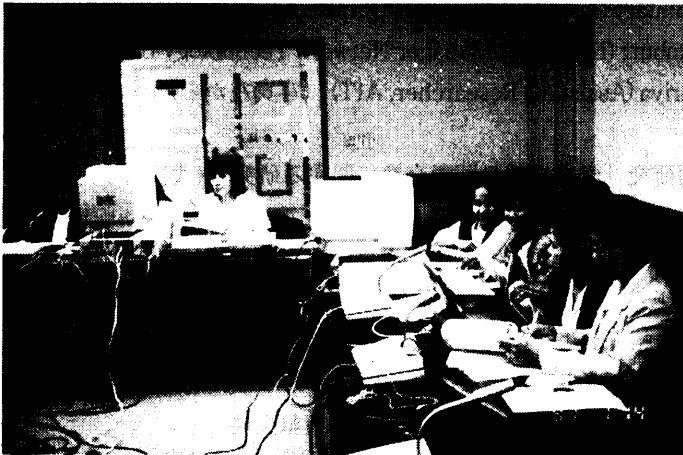
## タイ王国における研修の実施

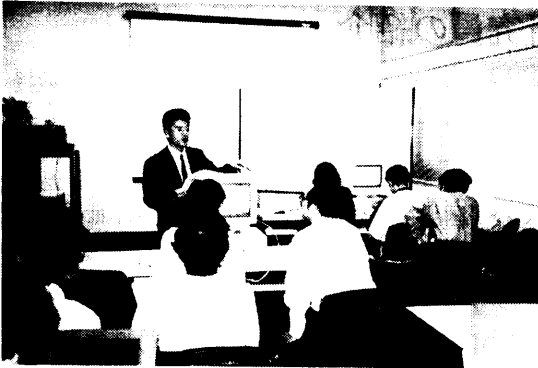
### 1. 経緯

学術情報センターでは、国際交流基金の助成による「アジア・スーパーハイウェイ上のアジア情報」に基づいたプロジェクトを1995年後半から開始している。このプロジェクトは、アジア地域における情報流通の調査および促進を目的としており、昨年度はタイ王国およびシンガポール、香港を対象に、学術情報の国際交換のための基盤整備状況、日本情報の需要等の調査を実施するとともに、日本国内におけるタイ関連の情報需要やネットワークアクセスの状況の調査を実施した。(これらの経緯については、「国際交流基金アジアセンター助成研究 アジア情報スーパーハイウェイ上におけるアジア情報 1995年度報告」として刊行している。)

### 2. 概要

今年度はタイ王国における日本情報の需要を明確化するため、国際交流基金バンコック日本文化センター、タマサート大学、チュラロンコーン大学をプロジェクト協力機関とし、各機関の日本研究者や図書館職員などに対して以下の日程で研修を行った。また合わせてNACSIS-IRのデモンストレーションを行った。





- (1) 日程： タマサート大学 1997年1月14日－1月17日  
 チュラロンコーン大学 1997年1月21日－1月24日
- (2) 研修内容： NACSIS-IRおよびNACSIS-CAT
- (3) 受講者： タマサート大学 25名  
 チュラロンコーン大学 12名  
 バンコック日本文化センター 6名

研修は日本語および英語で行われた。両会場ともに多くの参加があり、受講者の熱心で、積極的な姿勢が印象的であった。現在は、研修の効果の測定を兼ねて試行利用期間を設け、利用してもらっている。

今回の研修により、今後、NACSIS-IR等による日本情報の利用が促進されることと期待している。なお、研修の実施にあたり、国際交流基金バンコック日本文化センターおよびアジアセンターに多大なご協力をいただいたことを感謝する。

(国際事業係)

## 外国人研究員の紹介

学術情報センター教授  
おの きんじ  
 小野 欽司

学術情報センターでは、21世紀を目指してわが国学術情報基盤をより強固にし、世界に通用する情報学の研究を確立するためCOE(中核的研究拠点)プログラムを推進している。

その一つとして、「アクティブ・ハイパーメディア・ネットワーキング」プロジェクトを推進している。これはマルチメディア情報の国際的な流通、共有システムの構築を行うために必要な種々の様態のハイパーメディア情報をATMなどの高速ネットワーク上で効果的に処理する研究である。

その研究を推進するため、現在2名の外国人研究員を招聘している。



Frederic Andres博士はパリ第6大学(フランス)の助教授を経てEuropean Commission (EC)の奨学金で日本の企業の研究所で滞在研究をしていたが、ECの奨学金が終了となった1996年7月から、COEプログラムの外国人招へい研究員として学術情報センターで研究を行っている。アンドレス博士はパリ第6大学でPh.Dを獲得した後、ソフトウェア研究プロジェクトに従事して、データベース管理システムにおける問い合わせ最適化、ベンチマーキングの研究を行ってきた。

学術情報センターではリレーショナルデータベースとオブジェクト指向データベースを組み合わせた新しい概念のデータベース管理システムPhasmeの研究をし、これをハイパーメディア情報の処理に適用する研究を進めている。



Farid Boulos博士はパリ第6大学のPost Doctorで日本学術振興会外国人特別研究員として1996年10月から研究している。

ブロス博士は1996年7月パリ第6大学で計算機科学でデータベースの性能評価で学位を得たばかりで、学術情報センターでは、アクティブ・ハイパーメディア・ネットワーキングの研究において、モデルシステム的设计、プロトタイプシステムの開発とシミュレーション、理論研究を行っている。具体的な応用として、衛星環境データベースのネットワーク上のキャッシング・メカニズムについて検討している



両氏とも非常に研究熱心で日本の文化に興味を持ち、アンドレス博士は日本語も堪能である。

学術情報センターでは他の研究員と協力しながら、また相互に刺激を与えながら研究に取り組んでいる。

このプロジェクトでは、研究成果を具体的に日仏両国間における文化的、科学的情報の共有、伝達に応用することを計画しており、日仏の新しい情報ブリッジになることを期待している。

学術情報センターにおいては今後マルチメディア情報の処理など未だ体系化されていない学術情報の研究を行うことが必要で、これらの研究は双方にとって意義あることである。これらの研究の成果を、現在の図書館、博物館、美術館、資料館を越える新しい概念のハイパーメディア共有空間として活かすよう努力している。

## 「平成7年度学術情報データベース実態調査」 結果をWWWで公開

学術情報センターでは、昭和61年から学術研究のために研究者や大学・研究機関等が作成・提供しているデータベースに関する「学術情報データベース実態調査」を行っておりますが、この度平成7年度の調査結果から「作成データベース一覧（分野別）」を作成し、WWWで公開いたしました。

また、本一覧では各研究者又は各大学・研究機関等が作成したデータベースのホームページにリンクを張り、直接参照することができますので是非ご覧ください。

本センターでの紹介ホームページ <http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbdr/dbdr.html>

なお、URLの報告のない作成データベースにはリンクが張られていませんが、同ホームページで「リンク募集」を行っています。できるだけ多くのURLを報告いただき、やがては「学術情報データベースのイエローページ（ホームページ紹介）」として、WWWで公開したいと思っています。より一層のご協力をお願いいたします。

（データベース課調査係）

## タイ語環境に関する情報提供サーバの立ち上げ

学術情報センター助教授

あいざわ あきこ  
相澤 彰子

学術情報センターでは、文部省科学研究費国際共同研究「学術情報の国際交換に関する実証研究」(平成6年度～8年度, 研究代表者 小野欽司 研究開発部長) および国際交流基金アジアセンター助成研究「アジア・スーパーハイウェイ上のアジア情報」(平成7年度～, 研究代表者 小野欽司 研究開発部長) のもとに, アジア太平洋地域における学術情報の交換について, 調査や研究活動を行っている。

特に, 平成7年度に学術情報センターとタイ国立電子通信技術研究センター (NECTEC) の間に 2 Mbps の国際回線が新設されたことを受けて, タイ文字フォントやタイ語ソフトウェアを含むタイ語関連情報を提供するサーバを立ち上げ, 1996年10月より URL を <http://thaigate.nacsis.ac.jp> として実験的に運用を開始している。

本サーバで提供している主なタイ語関連情報は以下のとおりである。

- ・タイニュース (Thai news in Thai)  
タイ語によるタイのニュース。NECTEC (<ftp://ftp.nectec.or.th/pub/news/>) からのミラー。
- ・タイ語環境実現のための手引き (Thai References)  
タイ語の入出力, Netscapeによるタイ語表示, タイ語メールなどタイ語環境実現のための手引き。
- ・タイソフトウェア (Thai Software)  
東京工業大学, 米国ワシントン大学, タイ国チュラロンコン大学, NECTECにある各サイトより提供されるタイ関連ソフトウェアのミラー。

図1に本サーバのホームページを, 図2にタイ語による表示例を示す。

本サーバは関連する海外のサーバとも連携しており, タイに関連したさまざまな情報にアクセスする手段を提供している。タイ関連情報を必要とする国内外の研究者が, 少しでも多くの学術情報を入手する助けになれば幸いである。またこの場を借りて, サーバの立ち上げおよび運用に全面的に協力を頂いている Vuthichai Ampornaramveth 氏 ([vuthi@ctrl.titech.ac.jp](mailto:vuthi@ctrl.titech.ac.jp)) に改めて感謝の意を表したい。

\* 図1 タイ情報サーバのホームページ (<http://thaigate.nacsis.ac.jp>)

\* 図2 タイ語による表示例

# Thai Project

National Center for Reference Information Service

---

## Contents

- ☉ News
- ☉ Thai References
- ☉ Thai Software
- ☉ Information
- ☉ Links to other WWW pages

## Visit...

NAJSS  
 NKSJ  
 GIF SIG  
 and IIP

---

HOME NEWS REFERENCE SOFTWARE INFO LINKS

\*\*\*\*\* What's New \*\*\*\*\*

---

*Drop us a comment!*  
 This page last modified on Monday, 18-Nov-96 18:51:04 JST

☒1

## Guide for Studying in Japan for Thai Students

from  
 The Thai Students' Association in Japan

**General Information**

Items 5, 6 and 16 are still not available as the files were missing.  
 I'm waiting for the editor's coming back from his ski trip.

---

**Thai Table of Contents (GIF)**

1. (GIF) สำเนาจากอัครราชทูตที่ปรึกษา อรัญการึกษา
2. (GIF) จากมูลนิธิทำ
3. (GIF) คำถามรเบืองตนรองการไปเรียนตอญี่ปุ่น
4. (GIF) คำถามฟอเคลือของรึรมาลไทย (ก.พ.)
5. นึ่งการติดตอเบือการึกษาตอไปรเบืองตอญี่ปุ่น
6. สถาบันการึกษาภาษาญี่ปุ่น
7. (GIF) การสอบตดเตือกเข้าอึกษาตอในสถาบันการึกษาตางา
8. (GIF) วิธีการเตรียมตัวสอบเรียมหาวิทยาสิย(เชกน)ในปรเบืองตอญี่ปุ่น
9. (GIF) วิธีการเตรียมตัวสอบเรียมหาวิทยาสิยของรึรมาล
10. (GIF) วิทยาดิยจาวอึกษา (Senmon Gakko)
11. (GIF) ทุนการึกษา
12. (GIF) ทุนรึรมาลไทย
13. (GIF) ทุนรึรมาลญี่ปุ่น
14. (GIF) ทุนการึกษานันเดขสำหรับนักอึกษาทนส่วนตัว

☒2

## 「研究環境」および「研究動向」に関するアンケート調査

学術情報センター助教授  
おたわ よしゆき  
太田和 良幸

学術情報センター研究動向調査研究系では、平成8年11月および12月に急遽相次いで2つのアンケート調査を実施した。これらの調査は、現在鋭意集計・分析中であるが、今回これらのアンケート調査の目的、内容などの概要を以下に紹介するとともに、ご多用中にもかかわらずこのアンケートにご協力いただいた関係各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。

調査研究の結果は、いずれも、文部省が刊行している「我が国の文教施策」（いわゆる「教育白書」）や学術審議会（猪瀬 博会長）の審議等に基礎資料として提供し、学術研究環境改善の検討に反映させていくつもりである。

### 1. 大学の研究者をとりまく研究環境に関するアンケート調査（「研究環境」調査）

このアンケート調査は、学術研究基盤整備のための基本的考え方やその量的整備水準を各種の実証的調査研究に基づき提案するため、科研費により実施されている「学術研究基盤整備のための基礎的実証的研究」（代表：太田和良幸学術情報センター助教授）の研究の一環として実施されたものである。本研究では、科研費の分科レベル程度の専門分野ごとの具体的な研究環境を調査し、必要とされている各専門分野ごとの具体的な研究基盤整備方策を検討することとしている。

本アンケート調査の調査対象は、全国の国公私立大学の研究者から各専門分野ごとにランダムサンプリングした合計約8,300人の方々である。調査内容は、研究費・研究設備・研究施設のそれぞれの現状と問題点、研究支援業務および国際交流と研究環境の状況などの多岐にわたっている。

### 2. 学術研究動向に関するアンケート調査（「研究動向」調査）

このアンケート調査は、科研費による総合研究である「我が国の学術研究の動向調査」（代表：井上信幸京都大学エネルギー理工学研究所教授）の検討のため実施されたものである。この調査研究は、平成2年度に実施された同様の研究動向調査を踏まえ、それ以降の新たな動向について調査研究し、最新の我が国の学術研究動向の総括的な把握を目的としている。

本アンケートの調査対象者は、科研費の第1段・第2段審査委員経験者、特別推進研究・重点領域研究の研究代表者など、第一線で活躍中の各分野の代表的な研究者合計約1,200人である。調査内容は、最近の日本の研究水準、日本で達成された国際的に顕著な業績、最も重要と考えられる研究テーマなどに回答いただくものと、最近10年程度の国際的研究動向や今後10年位先に研究者の関心の的になると考えられる研究テーマなどについての自由記述となっている。

# 学術情報センター電子図書館サービスの開始

## 1. 概要

学術情報センターでは、ネットワークを介して、学術情報の一次文献を提供する「ドキュメント・デリバリー」を実現するものとして、平成9年4月から新しく「電子図書館サービス」を開始いたします。

平成9年度からのサービス開始に向けての学術情報センターとしての取り組みについては、本センターニュースで随時お伝えしてきましたが、そのコンテンツとしては、当面、我が国の学協会が発行する学会誌、論文誌の掲載記事を対象とすることとしています。以下に、サービスの概要をお知らせします。

## 2. サービス内容

### 2.1. コンテンツの種類

電子図書館サービスでは、次の2種類のコンテンツを提供します。

#### (1) 書誌データ

雑誌に掲載される主要な記事について、次の書誌データを文字データとして作成しています。

標題 (和/欧), 著者名 (和/欧), 著者所属機関名 (和/欧), 掲載雑誌情報 (雑誌名 (和/欧), ISSN, 巻, 号), キーワード (和/欧), 抄録 (和/欧)

#### (2) 画像データ

雑誌の表紙から裏表紙までのページをスキャニングして作成した画像データ。一部、広告頁等については、作成対象外です。

### 2.2. 提供コンテンツ

提供可能なコンテンツの学会名および雑誌名は、WWWをご覧ください。

(URL: <http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>)

## 3. 利用方法

利用に先立ち、利用申請を行い、利用者番号等を取得することが必要です。利用資格、申請方法などについては、「5. 利用の申請手続き等」をご参照ください。

### 3.1. 利用環境

本サービスの利用に当たって、利用するコンピュータがインターネットに接続可能であることが必要です。現在は、UNIXワークステーション用の環境を準備しております。パソコン用についても開発中で、平成9年度前半の提供を予定しております。それぞれで、必要となる利用環境は次のとおりです。

#### (1) UNIXワークステーション

学術情報センター電子図書館の専用クライアント・ソフトウェアが必要で、次の機器等の上で動作します。

(a) SUN Microsystems社製ワークステーションあるいは同互換機

- ・ SunOS 4.1.X上の, X11R5またはX11R6
- ・ Solaris 2.X上の, Open Windows,X11R5またはX11R6
- (b) NEC製 EWS4800
  - ・ EWS4800/320PX OS:EWS-UX/V 4.2MP
- (2) パソコン (平成9年度前半リリース予定)
  - (a) Microsoft Windows95

この場合は, 次のWWWブラウザとプラグイン・ソフトウェアが必要です。

    - ・ メモリ32MB以上を推奨
    - ・ Netscape Navigator Ver. 3 以上
    - ・ 学術情報センター電子図書館用 プラグイン・ソフトウェア
  - (b) Solaris 2.5.1 for X86
    - ・ メモリ62MB以上を推奨
    - ・ 学術情報センター電子図書館の専用クライアント・ソフトウェア
  - (c) Macintosh (Power MAC)
    - (a) のMicrosoft Windows95と同様の, Netscape Navigatorと組み合わせる専用プラグインを開発リリース予定。利用環境等は改めてお知らせします。
- (3) プリンタ

ページ画像を印刷出力したい場合は, 400dpiの画像出力の可能なプリンタ (例えば, ポストスクリプトプリンタ) が必要となります。
- (4) クライアント・ソフトウェアなど

学術情報センターのanonymous FTPサーバから, 無料で入手出来ます  
(<ftp://info.nacsis.ac.jp/pub/els-project/SUN/>)。

各自のコンピュータへのインストール方法については, ソフトウェアに添付されている説明書をお読みください。

### 3.2.利用の概要

ここでは, 簡単な利用の流れについて説明し, 詳細は, ソフトウェアに添付されている利用ガイドを参照してください。

- (1) 利用の開始

センターから伝えた利用者番号とパスワードを入力することで, 電子図書館サービスを開始します。パスワードについては, 定期的に変更するようにしてください。
- (2) 雑誌, 分野からの利用

閲覧したい雑誌や, 興味のある分野を指定し, その範囲内の雑誌を表示することが可能です。その後, 特定の号の表紙からページをめくるように閲覧していく, あるいは, 目次情報を表示し, 関心のある記事のページを表示するなどの利用が可能です。
- (3) 書誌検索からの利用

標題, 著者名, キーワードなどからの書誌検索を行い, 書誌事項を確認した後, ページを表示することが可能です。
- (4) 印刷出力

必要な論文などは, 手元のプリンタに印刷出力することができます。

#### 4. 利用料金

平成9年度に限り、利用者からの利用料金の徴収は行いません。平成10年度以降については決まり次第、センターニュースなどでお知らせします。

#### 5. 利用の申請手続き等

##### 5.1. 利用資格

平成9年度においては電子図書館サービスは以下のいずれかの利用資格を有する方が利用申請することができます。

- (1) 国、公、私立等の大学、短期大学、高等専門学校の教職員および大学院学生
- (2) 大学共同利用機関等の教職員
- (3) センターの電子図書館事業に協力する学協会\*の正会員

\*学協会については、別途ご照会ください。

##### 5.2. 申請方法

平成9年度については利用申請を次のいずれかの方法で行うことができます。

###### (1) 電子図書館サービス利用者登録申請書での利用申請

申請書に必要事項を記載の上、郵送にて担当係までお申し込みください。申請後約3週間で承認書(ID,パスワード)が送付されます。なお、「電子図書館サービス案内」(申請書)は管理部共同利用課までご請求ください。

なお、新規で申請される場合は所属機関(部局長等)の公印が必要となります。既に情報検索サービス(NACSIS-IR)の利用者番号をお持ちの方は公印の押印が省略できます。

###### (2) オンライン上(電子メール、WWW)での利用申請

- a. 必要事項を記入の上、メールでお申し込みください。
- b. Netscape等のWWWブラウザで以下のURLでオンラインサインアップができます。なお、詳細は、WWW(<http://www.nacsis.ac.jp/els/elapply-j.html>)をご覧ください。

オンラインでの新規申請後約3週間のあいだに、利用資格の確認書を送付しますので、所属機関で証明印(公印)を押印後ご返送ください。送付後1か月の間に確認書を返送されない方はサービス利用を停止しますのでご了承ください。なお、既に情報検索サービス(NACSIS-IR)の利用者番号をお持ちの方は利用資格の確認が省略できます。

(共同利用課・データベース課)

## 「国会図書館洋図書目録データベース」サービス開始

国立国会図書館が整理した洋図書を収録する「国会図書館洋図書目録データベース」のサービスを平成8年11月29日(金)から開始しましたので、その概要などをお知らせします。

### 1. 概要

#### (1) 収録対象

国立国会図書館が1986年9月以降に整理した洋図書。

#### (2) 収録範囲, 収録件数

サービス開始時の件数は153,000件。年間増加件数は約15,000件。

#### (3) 収録項目

図書標題および著者名, 出版者, 出版年, 国会図書館分類, 国会図書館件名など。

#### (4) 呼び出しコマンド

「NDLCFB」

### 2. 利用方法

データベースの内容および利用方法などについては、「NACSIS-IRデータベースシート(NDLCFB)」をご覧ください。

なお、データベースシートはお手元のFAXから取り寄せることもできます。詳しくはセンターニュース36号の「FAX情報サービス」をご覧ください。

### 3. 利用料金

データベースを呼び出す都度・・・30円/回

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額に消費税を加算した額となります。

### 4. その他

このデータベースは、国立国会図書館が米国議会図書館の図書目録(LCMARC)のデータを利用して作成(コピー・カタログング)したデータと、独自入力して作成(オリジナル・カタログング)したデータから成ります。オリジナル・カタログングの割合は現在のところ、半分ほどです。また、データの約7%はJPMARCデータベースにも収録されています。

(データベース課)



## 「平成8年度学術情報データベース実態調査」の回収結果と 「データベース・ディレクトリ」の更新

学術情報センターでは、昭和61年度から学術研究のために研究者や大学、研究機関等の作成しているデータベースの調査を、また昭和62年度からはデータベースの情報検索サービスを行っている大学・研究機関等の調査を行っています。

本年度は、平成7年8月に調査を実施し、回収結果は次のとおりです。

なお、本調査の詳細な分析報告は、「平成8年度データベース実態調査報告書」として3月中に刊行する予定です。

### 1 調査対象および回収結果

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	大学共同 利用機関	文部省文化庁 所 轄 機 関	短期大学 高 専
対 象 数	99	53	425	17	14	548
調査票A	855	46	433	166	66	76
調査票B	147	15	143	15	6	40
調査票C	385	17	195	114	43	37

区 分	国立試験 研究機関	公立試験 研究機関	特殊法人 の研究所	学術研究 法 人	合 計
対 象 数	110	655	18	235	2,174
調査票A	47	79	19	58	1,845
調査票B	13	27	2	20	428
調査票C	17	51	6	33	898

調査票A：研究者や大学・研究機関等で作成されているデータベースに関する調査

調査票B：データベースサービスを行っている大学・研究機関等に関する調査

調査票C：大学・研究機関等でサービスを行っているデータベースの個別調査

※ 放送大学は国立大学に含めた。

### 2. 「データベース・ディレクトリ」の更新

調査の内容に基づき、「データベース・ディレクトリ」を4月中に更新する予定です。最後に、本調査については、関係の大学・研究機関等の方々からご多忙中にもかかわらず多大なご協力を賜りました。深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご協力をお願いいたします。

(データベース課調査係)

## 「平成8年度学術研究活動に関する調査」結果の概要

学術情報センターでは、学術研究活動の状況把握と「研究者ディレクトリ」の充実・更新を目的として、標記調査を実施しました。研究機関ならびに研究者の方々には、お忙しい中にもかかわらずご協力をいただき、ありがとうございました。本調査に基づく「研究者ディレクトリ」の更新は4月頃を予定しております。今後とも定期的に調査を行っていく予定ですので、より一層のご協力をお願いいたします。

### 新規・更新調査票受付状況

(平成8年1月末現在)

	機 関			研 究 者	
	調査数	回収数	回収率(%)	昨年度	本年度
国立大学	99	99	100.0	48,195	47,627
公立大学	53	49	92.5	6,219	5,698
私立大学	425	394	92.7	53,643	48,122
国立短期大学	31	28	90.3	1,005	918
公立短期大学	63	55	87.3	1,676	1,513
私立短期大学	498	465	93.4	14,466	13,372
国立高等専門学校	54	54	100.0	3,662	3,662
公立高等専門学校	5	5	100.0	275	294
私立高等専門学校	3	3	100.0	161	147
大学共同利用機関等	20	19	95.0	994	908
文部省 ・ 文化庁	2	2	100.0	43	43
文部省 施設等機関	5	4	80.0	180	180
文化庁 施設等機関	11	9	81.8	213	203
文 部 省 所 管 民間学術研究機関	167	121	72.5	936	882
合 計	1,436	1,307	90.9	131,668	123,529

なお、平成8年度に回答が無かった研究者の方々については、平成7年度の情報をそのまま引き継ぐこととしました。

(データベース課調査係)

## 個別版CD-ROM提供サービスの平成9年度募集

「個別版CD-ROM提供サービス」の平成8年度募集に77件の申込みがありました。(内訳は次のとおり 単位：件)

件数 \ 配付頻度	年1回	年4回	申込件数
3万件以下	34	21	55
6万件以下	3	5	8
9万件以下	3	7	10
12万件以下	2	2	4
合計	42	35	77

つきましては、平成9年度の募集を以下の要領で行います。

### 1. サービス提供条件

#### (1) 対応機種およびOS

- ・ NEC-9801VX以降に発売されたPC-98シリーズでMS-DOSバージョン3.3以上
- ・ IBM-PCまたはその100%互換機でDOS/Vバージョン5.0以上

#### (2) 対象機関

- ・ 目録所在情報サービスの参加組織（学総目参加機関を含む）

#### (3) 収納対象

- ・ 総合目録データベースに登録された図書・雑誌の書誌・所蔵データ
- ・ 図書のみ、雑誌のみでも受け付けます(今年度から、和洋別の作成はできません)

#### (4) 作成単位

- ・ 単一の参加組織、またはいくつかの参加組織からなるグループ（機関全体や大学と短期大学の集合など）。ただし、後者の場合グループに属する全ての参加組織の同意が必要です。
- ・ 他の機関の参加組織を含めたグループも可能ですが、この場合は対象機関の同意書が必要です。
- ・ 配置コード単位でも作成できる場合があります。

#### (5) 収納件数

- ・ 上記作成単位の平成9年3月末現在の収納対象所蔵件数の合計が12万件を限度とします。

#### (6) 提供頻度

- ・ 年1回または年4回とします。

#### (7) 提供セット数

- ・ 同一のCD-ROMを最大5セットまでとします。

#### (8) 提供時期

- ・ 受諾書において個別に通知します。

**(9) 提供価格**

対象件数	1セット単価	2～5セットの単価
3万件以下	10,000	5,000
6万件以下	20,000	10,000
9万件以下	30,000	15,000
12万件以下	40,000	20,000

(注1) 対象件数は、平成9年3月末現在の収納対象所蔵件数です。

(注2) いずれも1回あたりの消費税込みの価格で、単位は円です。

(注3) 例えば、作成対象件数3万件の機関が年4回(5セット)申し込む場合、

$$4 \times (10,000 + 5,000 \times 4) = 120,000$$

で、12万円となります。

**(10) CD-ROMの保証期間**

- ・提供するCD-ROMについては、通常の使用で一年間保証します。通常の使用で障害が生じた場合は、一年以内であれば無償で交換します。

**2. 申込締切**

平成9年4月30日(木) 必着

**3. 申込書の請求・問い合わせ先**

〒112 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター事業部目録情報課相互協力係気付

財団法人電気・電子情報学術振興財団

電話 (03)3942-6987,6988 (直通)

FAX (03)3944-7131

\*また、オンライン・システムニュースレターNo.58およびWWW上でも申込書を配付していますのでご利用ください。

URL:<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/kobetsu-cd-rom.html>

**図書所蔵レコード件数2,500万件突破**

平成8年12月2日(月)に学術情報センターの目録所在情報サービスの図書所蔵レコード件数が2,500万件を突破しました。2,000万件を突破した平成7年12月1日からちょうど1年目の達成です。

この間の500万件毎の達成期間を見ますと、最初の500万件は5年10か月かかっていますが、以後は1,000万件までに1年11か月、1,500万件までに1年6か月、2,000万件までが1年2か月、そして今回の2,500万件までが1年と着実に増加の速度は上がっています。

これもひとえに各参加機関の共同分担目録作業へのご協力の賜物です。各参加機関の皆様には感謝を申し上げます。

(目録情報課)

## 「WWW資源提供サービス」利用状況

学協会が保有する学術研究情報をWWWのしくみを利用して全世界に情報発信するのを支援する目的で、平成7年7月から「WWW資源提供サービス」を開始しました。このサービスでは、学協会はWWW上に掲載する学術情報のコンテンツを準備しサーバ上で公開していただき、当センターはそのサーバを維持・管理し、学協会の広報活動のサポートをするという内容のものです。当初、学協会を対象にして始まりましたが、学術研究法人、研究助成法人等を加えて範囲を拡大してまいりました。平成9年2月現在以下のような参加状況になっており、多数の学協会に参加していただいております。

なお、このサービスは無料で提供されておりますので、利用者の所属学会でこれからインターネットを利用したWWWによる情報発信を検討されておられるような場合はこのサービスをご利用いただければ幸いです。

このサービスは共同利用第二係（ダイヤルイン03-3942-6934，FAX03-3942-6797）で受付けております。また、wwwsoc@ad.nacsis.ac.jpにメールでお問い合わせいただいても結構です。

### 1. ホームページを開設している学会

平成9年2月25日現在

No.	学 会 名	No.	学 会 名
1	(社)日本物理学会	19	日本ソフトウェア科学会
2	応用物理学欧文誌刊行会	20	日本林学会
3	(社)土木学会	21	(社)砂防学会
4	日本地形学連合	22	(社)腐食防食協会
5	(社)日本金属学会	23	日本顎咬合学会
6	日本図書館学会	24	日本分析化学会
7	日本脳神経外科コンピュータ研究会	25	(社)応用物理学会分科会日本光学会
8	日本水文科学会	26	(社)日本気象学会
9	日本超音波医学会	27	日本風工学会
10	(社)日本化学会	28	画像電子学会
11	日本生物物理学会	29	(社)化学工学会
12	(社)日本生物工学会	30	(社)人工知能学会
13	数理社会学会	31	光物性研究会（日本物理学会）
14	(社)日本氷雪学会	32	農業機械学会
15	地理科学学会	33	(財)高度自動化技術振興財団
16	日本地理学会	34	日本デザイン学会
17	日本農芸化学会	35	日本情報地質学会
18	日本家庭科教育学会	36	(社)日本音響学会

No.	学 会 名	No.	学 会 名
37	(社)応用物理学会	55	(社)日本理学療法士協会
38	(社)日本造園学会	56	日本毒科学会
39	日本応用地質学会九州支部	57	日本図書館協会
40	日本緑化工学会	58	国際システムダイナミクス学会日本支部
41	(社)日本薬理学会	59	日本魚類学会
42	日本理科教育学会	60	日本宇宙生物科学会
43	(社)日本獣医学会	61	日本AEM学会
44	(社)溶接学会	62	日本自然災害学会
45	(社)日本動物学会	63	日本時間生物学会
46	日本地下水学会	64	日本リスクマネジメント学会
47	日本教育社会学会	65	(社)日本油化学会
48	日本性格心理学会	66	日本生理学会
49	日本表面科学会	67	日本陸水学会
50	地学団体研究会	68	日本産業技術教育学会
51	(社)日本応用磁気学会	69	(財)ファイザーヘルスリサーチ振興財団
52	日本民族学会	70	日本生体磁気学会
53	日本磁気共鳴医学会	71	ケイ素化学協会
54	日本医学図書館協会		

## 2. ホームページを準備中の学会（承認済）

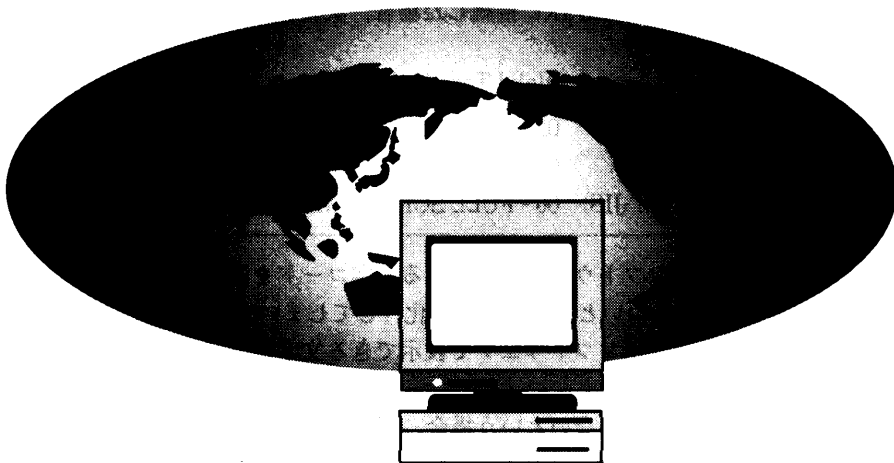
No.	学 会 名	No.	学 会 名
1	日本家族心理学会	13	ロシア史研究会
2	(社)日本非破壊検査協会	14	日本真空協会
3	(財)日本眼科学会	15	経済資料協議会
4	(社)日本工学会	16	(財)生産技術研究奨励会
5	日本第四紀学会	17	日本図書館研究会
6	オフィス・オートメーション学会	18	日本応用数理学会
7	日本教育情報学会	19	(社)日本リモートセンシング学会
8	日本脳神経外科学会	20	(社)日本ロボット学会
9	水文・水資源学会	21	記録管理学会
10	(社)地盤工学会	22	日本高専学会
11	日本土壌動物学会	23	(社)農業土木学会
12	日本太陽エネルギー学会	24	日本鉱物学会

No.	学 会 名	No.	学 会 名
25	日本発達心理学会	35	数学教育学会
26	日本応用地質学会	36	スペイン史学会
27	美術科教育学会	37	(社)情報科学技術協会
28	日本地震学会	38	(社)日本塑性加工学会
29	(社)日本航空宇宙学会	39	(社)粉体粉末冶金協会
30	日本動物分類学会	40	日本宇宙航空環境医学会
31	日本ベントス学会	41	関東社会学会
32	日本物理教育学会	42	日本ヴァージニア・ウルフ協会
33	日本照明学会	43	(社)日本医学放射線学会
34	日本地学教育学会	44	日本材料科学会

### 3. 他のWWWサーバにリンクを張っているもの

(社)日本建築学会, (社)電子情報通信学会, 医療情報ネットワーク, 日本海洋学会, (財)関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団, (社)情報処理学会, 日本網膜硝子体学会, 日本質量分析学会, 地理情報システム学会, (社)プラズマ・核融合学会, 日本火山学会, 日本ファジイ学会, 日本天文学会, 日本超音波検査学会, 国際生命情報科学会

(共同利用第二係)



## NACSIS-IR Q&amp;A

今回は、とくにNACSIS-IRを初めて利用される方から多く寄せられた質問をとりあげています。

**質問1**

・データベースの呼出しコマンド名を参照するコマンドはないか。

NACSIS-IR では、現在、50種以上のデータベースをサービスしています。その中から自分が検索したいデータベースを呼び出すためには、「データベース呼出しコマンド」を入力します。

「データベース呼出しコマンド」はデータベース毎に形（名称）が決まっていますので、コマンドを正しく入力しないとエラーになります。

そこで、「データベース呼出しコマンド」を参照するためのコマンドとして、次の2つのコマンドがあります。ともにTSSモード (>>が表示されている状態) で使用するコマンドです。

**(1) LISTコマンド**

NACSIS-IRのサービスデータベースの一覧を表示します。データベース名称、データベース呼出しコマンドのほか、データベース収録件数、収納期間、最終更新日付が表示されます。

**(2) MENUコマンド**

LISTコマンドと同様の一覧を表示します。さらに番号を指定することにより、データベースを呼び出すことができます。

**質問2**

・NACSIS-IRに接続したが、日本語が文字化けをされていて正しく表示されない。

インターネット経由でNACSIS-IRに接続した場合、次のような端末モード選択画面が表示されます。

Valid Terminal Types	
01 - LINE MODE (JIS7)	02 - FULL SCREEN MODE (ASCII)
03 - LINE MODE (EUC)	04 - FULL SCREEN MODE (EUC)
05 - LINE MODE (SHIFT-JIS)	06 - FULL SCREEN MODE (SHIFT-JIS)

これは、端末や通信用ソフトウェアで使用する文字コードを選択するためのもので、ここで正しいコードを選択しないと日本語が文字化けしてしまいます。

お使いになる端末や通信用ソフトウェアで表示できる文字コードが何であるかについては、各自で確認してください。

万が一、文字コードが分からないという場合、「NEWSコマンド (TSSモード (>>が表示されている状態) で使用します)」でオンラインニュースを表示させてみて、ニュースの日本語が正しく表示されるかどうかを確認してみてください。もし文字化けしているようなら、別の文字コードを選んで再接続し、正しく日本語が表示されれば、その文字コードがお使いになっている端末や通信用ソフトウェアに対応した文字コードということになります。



**質問3**

・オンラインマニュアルのようなものはないか。

「NACSIS-IR総合マニュアル（改訂版）」に対応するオンラインマニュアルはありませんが、ヘルプ機能として、以下のコマンドを用意しています。

**(1) TSSモード (>>が表示されている状態) から使用するコマンド**

コマンド名	機 能
HELP	TSSモードから利用できるコマンドの一覧を表示します。
INTRO	NACSIS-IRの検索例を表示します。

**(2) データベース検索中に使用するコマンド**

コマンド名	機 能
?HELP	ヘルプの一覧を表示します。
?COMMAND	コマンド一覧を表示します。
?コマンド名	そのコマンドの機能および入力書式を表示します。
?ERROR	エラー・メッセージの説明を表示します。
?INFO	データベースの項目一覧（項目名、プリフィックス、出力モード）を表示します。
?ITEM	データベースの項目名の一覧を表示します。

なお、NACSIS-IRの利用方法、サービスデータベース一覧、データベースの概要等については、WWW(URLは<http://www.nacsis.ac.jp/ir/ir-j.html>)でも公開しています。（お使いのWWWブラウザにtelnetアプリケーションが登録してあれば、WWWブラウザ上からNACSIS-IRへtelnet接続することができます。）

また、データベースの項目一覧やプリフィックス、出力モードが掲載された「データベースシート」については、FAXで取り出すことができます。詳しくは、センターニュース36号（1996.6）の「FAX情報サービスの開始」をご覧ください。

（データベース課）

## 失効した利用者番号での継続受付期限（6月27日）

学術情報センターシステム（情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）の継続手続きを継続受付期間内（平成9年2月3日（月）から3月21日（金））に行わなかった場合は、平成9年4月1日（火）以降の利用はできなくなります。本センターに直接申請した利用者で継続を希望する場合は、失効した利用者番号で情報検索サービス（または電子メールシステム）に接続すると「継続の有無」が表示されますので、継続すると答えることにより継続の申請を受け付けています（ただし、継続の手続きが終了するまで1～2週間利用できなくなります。）。失効した利用者番号での継続の手続きは平成9年4月1日（火）から6月27日（金）まで受け付けますので、継続を希望する利用者はお早めに手続きを行ってください。

なお、大型計算機センター経由で申請した利用者はこの方法では継続できませんので、所属する大型計算機センターから第二センター申請コマンドにより新規で申請を行ってください。

（共同利用第一係）

## 接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

（平成9年2月17日現在）

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
483	国立西洋美術館	8.11.12	493	松江工業高等専門学校	8.12.5
484	大谷大学	8.11.18	494	秋田公立美術工芸短期大学	8.12.6
485	新島学園女子短期大学	8.11.21	495	津田塾大学	8.12.10
486	愛知工業大学	8.11.22	496	北海道工業大学	8.12.11
487	島根県立看護短期大学	8.11.27	497	国家公務員等共済組合連合会	8.12.17
488	横浜女子短期大学	8.11.27	498	福井工業大学	8.12.18
489	鹿児島県立短期大学	8.12.2	499	愛知みずほ大学	8.12.19
490	鹿児島純心女子大学	8.12.2	500	金沢経済大学	8.12.20
491	舞鶴工業高等専門学校	8.12.2	501	紙の博物館	9.1.20
492	茨城女子短期大学	8.12.3	502	東京文化短期大学	9.1.21

この結果、参加機関数は、国立大学98、公立大学35、私立大学250、共同利用機関12、短期大学39、高等専門学校15、その他53、合計502となりました。

（共同利用第一係）

## NACSIS-CATデータベース構築状況

平成9年2月21日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	1,299,469	
		所 蔵	17,692,193	
	洋 図 書	書 誌	1,838,690	
		書誌(遡及)	727,939	
	和 雑 誌	所 蔵	8,388,873	
		書 誌	84,563	
	洋 雑 誌	所 蔵	1,878,179	
		書 誌	123,084	
	著 者 名 典 拠	所 蔵	1,169,587	
	統 一 書 名 典 拠		918,617	
和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		11,702		
洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		9,941		
参照ファイル	LC/MARC	洋 図 書 書 誌	4,992,674	1968年1月~1996年10月
		洋 雑 誌 書 誌	727,381	1973年1月~1996年11月
		非 文 字 書 誌	268,147	1973年1月~1993年 7月
		洋 書 著 者 名 典 拠	2,947,639	1977年1月~1996年11月
		洋 書 統 一 書 名 典 拠	175,450	1977年1月~1996年11月
	JP/MARC	和 図 書 書 誌	1,847,816	1948年1月~1996年11月
		和 雑 誌 書 誌	100,582	1968年8月~1996年 9月
		和 書 著 者 名 典 拠	325,315	
	UK/MARC	洋 図 書 書 誌	1,590,227	1950年1月~1996年11月
	TRC/MARC	和 図 書 書 誌	523,406	1985年4月~1996年11月
GPO/MARC	洋 図 書 書 誌	401,787	1976年1月~1996年10月	

(システム業務係)

## NACSIS-IRデータベース収納状況

平成9年2月21日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	171,792	1985年4月～
2	学位論文索引データベース	149,560	1953年9月～
3	学会発表データベース	285,597	1987年3月～
4	学術論文データベース第一系 (全文) (電子関連) (抄録)	4,915 7,534	1989年4月～
5	学術論文データベース第二系 (化学関連)	20,266	1983年1月～
6	学術論文データベース第五系 (理学関連)	9,245	1990年11月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	1992年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	5,869	1964年～
9	経済学文献索引データベース	152,814	1983年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	193,826	1948年11月～
11	臨床症例データベース	7,495	1981年1月～
12	学術雑誌目次速報データベース	53,517	1938年1月～
13	科学研究費補助金採択課題データベース	30,734	
14	雑誌記事索引データベース	1,463,599	1984年1月～
15	民間助成決定課題データベース	8,627	1994年4月～
16	現行法令データベース	3,865	1996年5月現在
17	維新史料綱要データベース	28,667	
18	古文書目録データベース	3,014	
19	木簡データベース	15,925	
20	研究者ディレクトリ	130,292	1995年5月現在
21	データベース・ディレクトリ	1,856	1995年7月現在
22	家政学文献索引データベース	106,353	1945年～
23	RAMBIOS	10,309	1983年4月～
24	化学センサーデータベース	18,086	1975年1月～
25	日本独文学会文献情報データベース	26,393	1947年～
26	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
27	電気化学データベース	81,846	
28	文化財科学文献データベース	19,069	1879年～
29	化学と教育誌データベース	3,537	1972年～
30	現代邦楽作品データベース	1,665	1963年～
31	日本建築学会文献索引データベース	71,781	1976年～

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
32	北海道大学北方資料総合目録データベース	43,800	
33	中東・イスラーム研究文献索引データベース	14,605	
34	中央アジア研究文献索引データベース	15,007	
35	アジア歴史研究者ディレクトリ	1,799	
36	印度学・仏教学研究ディレクトリ	759	
37	Life Sciences Collection PLUS Marine Biology and Bio Engineering	1,717,289	1982年1月～
38	MathSci	1,825,568	1940年1月～
39	COMPENDEX PLUS	3,423,166	1976年1月～
40	Harvard Business Review	2,860	1927年1月～
41	ISTP & B	2,955,013	1982年1月～
42	EMBASE	4,074,104	1984年4月～
43	SciSearch	10,483,188	1983年1月～
44	Social SciSearch	1,815,231	1983年1月～
45	A & H Search	1,626,953	1983年1月～
46	目録所在情報データベース (和図書)	1,287,034 17,422,017	
47	目録所在情報データベース (洋図書)	2,523,331 8,173,756	
48	目録所在情報データベース (和雑誌)	83,880 1,872,659	
49	目録所在情報データベース (洋雑誌)	122,342 1,163,408	
50	科学技術関係欧文会議録データベース	49,044	1985年1月～
51	アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	5,883	1993年10月現在
52	JPMARC	1,846,977	1868年1月～
53	LCMARC(Books)	4,129,492	1968年1月～
54	LCMARC(Serials)	727,381	1973年1月～
55	大型コレクションディレクトリ	530	1978年4月～
56	日本の医学会会議録データベース	24,059	1990年～
57	国会図書館洋図書目録データベース	157,161	1986年
58	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	18,496	1991年4月～
59	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	7,513	1992年7月～

(注) No46～49のデータベースの上段は書誌件数，下段は所蔵件数。 (システム業務係)

## 平成 8 年度 教育研修事業報告

平成 8 年度の教育研修事業は、以下のとおり実施しました。

講習会等の種類	会 場	回数	開 催 期 間	受講者
学術情報センター・セミナー	学術情報センター他	前期	8.10. 7 (月) ~ 12.20 (金)	3名
		後期	9. 1.13 (月) ~ 2.28 (金)	
	小計			
情報ネットワーク担当職員研修 (ネットワーク管理I)	学術情報センター他	①	8. 6.24 (月) ~ 6.28 (金)	21名
		②	8. 8.26 (月) ~ 8.30 (金)	20名
		③	8.10.28 (月) ~ 11. 1 (金)	20名
	小計			
情報ネットワーク担当職員研修 (ネットワーク管理II)	学術情報センター他	①	8. 7.29 (月) ~ 8. 2 (金)	16名
		②	8. 9. 2 (月) ~ 9. 6 (金)	15名
		③	8.11.18 (月) ~ 11.22 (金)	14名
	小計			
総合目録データベース実務研修	学術情報センター	①	8.10.14 (月) ~ 11. 1 (金)	12名
		②	8.11.11 (月) ~ 11.29 (金)	12名
	小計			
目録システム講習会 (図書コース)	学術情報センター	①	8. 5.28 (火) ~ 5.30 (木)	34名
		②	8. 7. 9 (火) ~ 7.11 (木)	34名
		③	8.10.15 (火) ~ 10.17 (木)	33名
		④	8.11.19 (火) ~ 11.21 (木)	34名
		⑤	8.12.17 (火) ~ 12.19 (木)	34名
		⑥	9. 2.25 (火) ~ 2.27 (木)	34名
	小計			
目録システム講習会 (雑誌コース)	学術情報センター	①	8. 6.25 (火) ~ 6.27 (木)	34名
		②	8. 7.30 (火) ~ 8. 1 (木)	34名
		③	8.10.29 (火) ~ 10.31 (木)	34名
		④	8.12. 3 (火) ~ 12. 5 (木)	34名
	小計			
目録システム地域講習会 (図書コース) (開催大学共催)	筑波大学		8. 5.28 (火) ~ 5.30 (木)	7名
	熊本大学		8. 6. 3 (月) ~ 6. 5 (水)	10名
	金沢大学		8. 6.11 (火) ~ 6.13 (木)	12名
	東北大学		8. 7. 2 (火) ~ 7. 4 (木)	14名
	東京大学	①	8. 7.10 (水) ~ 7.12 (金)	20名
		②	8. 7.10 (水)	
			8. 7.15 (月) ~ 7.17 (水)	
	鹿児島大学		8. 7.15 (月) ~ 7.17 (水)	17名
	鳥取大学		8. 7.24 (水) ~ 7.26 (金)	8名
	岡山大学		8. 7.30 (火) ~ 8. 1 (木)	9名
大阪大学		8. 7.30 (火) ~ 8. 1 (木)	12名	

講習会等の種類	会 場	回数	開 催 期 間	受講者
目録システム地域講習会	山口大学		8. 8. 6 (火) ~ 8. 8 (木)	10名
	東京工業大学		8.10. 1 (火) ~ 10. 3 (木)	7名
	九州大学	①	8.10. 1 (火) ~ 10. 3 (木)	16名
		②	8.10. 1 (火)	
	北海道大学		8.10. 7 (月) ~ 10. 9 (水)	22名
		①	8.10. 2 (水) ~ 10. 4 (金)	
		②	8.10. 2 (水)	
	広島大学		8.10. 7 (月) ~ 10. 9 (水)	10名
	神戸大学	①	8.10.14 (月) ~ 10.16 (水)	21名
		②	8.10.14 (月) 8.10.17 (木) ~ 10.18 (金)	
	京都大学	①	8.10.22 (火) ~ 10.24 (木)	20名
		②	8.10.22 (火) 8.10.28 (月) ~ 10.30 (水)	
	名古屋大学		8.11.13 (水) ~ 11.15 (金)	12名
琉球大学		8.12. 2 (月) ~ 12. 4 (水)	10名	
小計			237名	
目録システム地域講習会 (雑誌コース) (開催大学共催)	神戸大学		8.11.12 (火) ~ 11.14 (木)	12名
小計			12名	
I L Lシステム講習会	学術情報センター	①	8. 6. 4 (火) ~ 6. 5 (水)	34名
		②	8. 7. 2 (火) ~ 7. 3 (水)	34名
		③	8. 7.23 (火) ~ 7.24 (水)	32名
		④	8.10. 8 (火) ~ 10. 9 (水)	32名
	小計			132名
I L Lシステム地域講習会 (開催大学共催)	熊本大学		8. 6. 6 (木) ~ 6. 7 (金)	10名
	東北大学		8. 6.20 (木) ~ 6.21 (金)	14名
	鹿屋体育大学		8. 7. 2 (火) ~ 7. 3 (水)	6名
	鹿児島大学		8. 7.18 (木) ~ 7.19 (金)	17名
	大阪大学		8. 7.25 (木) ~ 7.26 (金)	11名
	北海道大学		8. 8. 8 (木) ~ 8. 9 (金)	10名
	東京大学		8. 9.24 (火) ~ 9.25 (水)	10名
	広島大学		8.10. 3 (木) ~ 10. 4 (金)	10名
	東京工業大学		8.10. 7 (月) ~ 10. 8 (火)	7名
	名古屋大学		8.11.11 (月) ~ 11.12 (火)	14名
	京都大学		8.11.19 (火) ~ 11.20 (水)	10名
	小計			119名

講習会等の種類	会 場	回数	開 催 期 間	受講者
NACSIS-IR講習会	学術情報センター	①	8. 5.31 (金)	34名
		②	8. 6.18 (火)	34名
		③	8. 7.16 (火)	34名
		④	8.10.22 (火)	34名
		⑤	8.11.12 (火)	34名
		⑥	8.12.10 (火)	30名
		⑦	9. 2.18 (火)	20名
	小計			
NACSIS-IR 地域講習会 (開催大学共催)	鹿児島大学		8. 6.18 (火) ~ 6.19 (水)	19名
	九州大学		8. 7.25 (木) ~ 7.26 (金)	20名
	東北大学		8. 8. 1 (木) ~ 8. 2 (金)	13名
	北海道大学		8. 9.19 (木) ~ 9.20 (金)	20名
	立命館大学		8. 9.25 (水) ~ 9.26 (木)	20名
	京都大学		8.10. 3 (木) ~ 10. 4 (金)	16名
	同志社大学		8.10. 7 (月) ~ 10. 8 (火)	30名
	東京大学		8.10.22 (火) ~ 10.23 (水)	20名
	金沢大学		8.10.29 (火) ~ 10.30 (水)	23名
	名古屋大学		8.11.19 (火) ~ 11.20 (水)	25名
	琉球大学		8.12. 5 (木) ~ 12. 6 (金)	11名
小計				217名
電子メールシステム講習会	学術情報センター	①	8. 7.25 (木)	26名
		②	8.10.24 (木)	29名
		③	8.12.12 (木)	29名
	小計			
合 計				1,498名

◇学術情報センターシンポジウム

テ ー マ	会 場	開催日	参加者
ネットワークコンピューティング の進展と学術情報流通	大阪府立中央図書館ライティホール	8年12月12日(木)	307名
	東京大学安田講堂	9年 1月23日(木)	532名
合 計			839名

上記の研修・講習会等の実施には、関係各位のご協力を頂きましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。



## ◇平成8年度大学等主催講習会の支援事業の報告

機関名	日程	サービス	対象	人数
北海道大学附属図書館	4月22日～4月24日	NACSIS-CAT	図書館職員	16
慶応義塾大学文学部図書館情報学科	5月17,24,31日	NACSIS-IR	学生	50
	8月7日～8月8日	NACSIS-CAT	学生	60
	10月24日	NACSIS-IR	院生	6
鹿児島純心女子短期大学図書館	5月20日～5月23日	NACSIS-IR	教職員	100
立命館大学図書館	5月24日～5月30日	NACSIS-IR	教職員、院生	100
	6月24日～6月26日	NACSIS-IR	教職員、院生	30
	11月11日～11月13日	NACSIS-IR	教職員、院生	25
東洋大学社会学部応用社会学科	5月24日～7月12日 の間で8日	NACSIS-IR	学生	50
長崎大学附属図書館	6月4日～6月7日	NACSIS-CAT	図書館職員	10
東京大学附属図書館	6月5日	NACSIS-IR	教職員、院生	10
	10月30日	NACSIS-IR	教職員、院生	10
京都大学附属図書館	6月6日～6月7日	NACSIS-ILL	図書館職員	10
	6月11日～6月12日	NACSIS-IR	図書館職員	30
	7月1日～7月4日	NACSIS-CAT	図書館職員	10
東洋英和女学院大学	6月28日 7月5,12日	NACSIS-IR	学生	70
	7月2日～7月3日	NACSIS-IR	教職員、院生	40
東京学芸大学附属図書館	7月2日～7月3日	NACSIS-IR	教職員、院生	40
	12月3日～12月4日	NACSIS-IR	教職員、院生	40
図書館情報大学(司書講習)	7月23日～7月26日	NACSIS-CAT	図書館職員	30
活水女子大学図書館	7月31日	NACSIS-IR	教職員	12
新潟県大学図書館協議会 相互利用担当者研修	8月23日	NACSIS-ILL	図書館職員	10
日本図書館学会 (NACSIS-CATワークショップ)	9月3日～9月4日	NACSIS-CAT NACSIS-ILL	学会員	34
琉球大学附属図書館	9月26日～9月27日	NACSIS-IR	教職員	52
日本大学文理学部	9月26日～11月14日 の間で6日	NACSIS-IR	学生	20
清泉女子大学文学部	11月11日～12月21日 の間で10日	NACSIS-IR	学生	31
日本家政学会中部支部	12月24日	NACSIS-IR	学会員	40
計	18機関	79日		計896人

(研修課)

## 平成8年度 学術情報センター・セミナー 終了報告

平成8年度学術情報センター・セミナーを、平成8年10月7日～12月20日（前期）、平成9年1月13日～2月28日（後期）の計18週間の日程で開催し、このほど終了しました。

この研修の目的は、各大学において学術研究活動支援の中核となる人材を養成することであり、今年度は大学図書館の他、大型計算機センター、総合情報処理センターからも研修生を迎え、3名の方が全過程を無事修了されました。修了された方々の今後の活躍が大いに期待されます。



修了者名とその研修課題の概要を以下に紹介します。なお、各研修生の研修課題の成果である研究レポートは、「平成8年度学術情報センター・セミナー研究レポート」として刊行します。

原 修 （立教大学）

【指導教官：宮澤 彰】

### 研修課題：情報検索プロトコルANSI/NISO Z39.50を利用した基本サーバの構築

情報検索プロトコルであるANSI/NISO Z39.50の機能等に関する調査を行うと共に、同プロトコルに対応した既存のPDSを入手しその分析等を行った。

それをもとに同プロトコルの基本機能を実装したサーバを構築し、動作確認等を通しての評価を行った。

多久島 智 （九州大学）

【指導教官：橋爪宏達】

### 研修課題：インテリジェント型ネットワーク接続装置を用いたネットワークルータの製作

東海ソフト株式会社製のインテリジェント型ネットワーク接続装置（Net-Attach）にネットワークのルーティング機能等を追加し、それを用いて小規模LAN（自宅等）と大規模LAN（大学等）間での公衆網によるTCP/IP接続の実現を試みた。

坂本 江 見 （富山大学）

【指導教官：橋爪宏達】

### 研修課題：インテリジェント型ネットワーク接続装置を用いたトラフィックモニタの製作

Net-Attachの機能調査を行い、割り込み処理や送受信処理等について必要な機能を追加することにより、同一セグメント内のネットワークトラフィック状況を把握するためのモニタリングシステムとして動作させることを試みた。

（研修課）

## 平成8年度サービス利用説明会の報告

平成8年度に目録所在情報サービスの未接続機関を対象とした「目録所在情報サービス利用説明会」、国公立試験研究機関や学会等を対象とした「情報検索・電子メール利用説明会」、学術情報ネットワークの加入を予定している機関を対象とした「学術情報ネットワーク加入説明会」をそれぞれ開催いたしました。各説明会の参加機関数および参加人数は下記のとおりです。

## 1. 平成8年度目録所在情報サービス利用説明会参加機関および参加人数

開催日	参加機関数	内 訳				参加人数
		大 学	短 大	高 専	その他	
第1回 5/17	9	3	4	1	1	12
第2回 7/12	17	8	8	1	0	22
第3回 10/ 4	11	8	1	0	2	16
第4回 2/ 7	8	5	1	0	2	11
合 計	45	24	14	2	5	61

## 2. 平成8年度情報検索・電子メール利用説明会参加機関および参加人数

開催日	参加機関数	内 訳				参加人数
		大 学	短 大	高 専	その他	
第1回 6/7	10	0	1	0	9	13
第2回 9/6	6	1	0	0	5	8
第3回 11/8	5	2	1	0	2	8
合 計	21	3	2	0	16	29

## 3. 平成8年度学術情報ネットワーク加入説明会参加機関および参加人数

開催日	参加機関数	内 訳				参加人数
		大 学	短 大	高 専	その他	
第1回 6/21	13	6	6	0	1	19
第2回 11/22	19	8	6	1	4	29
合 計	32	14	12	1	5	48

(共同利用第一係)

## 平成9年度 教育研修事業実施予定

平成9年度の教育研修事業を、次のとおり計画しております。

研修会等の種類	目 的	受 講 対 象 者	会 場	日 数
学術情報センター セミナー	高度化する学術情報システムの環境に対応しうる知識と技術を修得し、学術研究活動を支援する要員を養成する。	大学等の図書館または大型計算機センター等において情報処理関連機関に勤務する者で、セミナーの目的に合致した研修目標と課題遂行能力を有する年齢35歳までの職員。	学術情報センター	18週間
情報ネットワーク 担当職員研修 (ネットワーク管理Ⅰ)	大学等において情報ネットワークの運用管理に携わる職員に対し、情報ネットワークに関する最新かつ高度の知識および専門的技術を修得する機会とする。	大学等の大型計算機センター、総合情報処理センター、情報処理センター、図書館等において情報ネットワークの運用管理業務を担当する職員。	学術情報センター他	5日間
情報ネットワーク 担当職員研修 (ネットワーク管理Ⅱ)		ネットワーク管理Ⅰの修了後1年以上のネットワーク管理業務歴を有する者または同等の知識と業務歴を有する運用管理業務担当職員。	学術情報センター他	5日間
総合目録データベース実務研修	目録所在情報サービスを利用している図書館において、目録業務担当者の指導や、講習会の講師を行う等、各館の中核となる高度な知識と技術を有する目録担当職員を養成する。	目録所在情報サービスを利用している図書館等職員のうち目録システム講習会を修了し、かつ目録業務について十分な知識と経験を有する者。	学術情報センター	3週間
目録システム 講習会 (図書コース)	目録所在情報サービスを利用している図書館において、目録システム業務担当職員に対し、システムの運用に関する知識・技術を習得する機会とする。	目録システムに接続している機関で、現在図書目録の登録業務を担当している職員。	学術情報センター	3日間
目録システム 講習会 (雑誌コース)		目録システムに接続している機関で、現在雑誌目録の登録業務を担当している職員。	学術情報センター	3日間
目録システム 地域講習会 (図書コース) 〔各大学図書館等共催〕	目録システム講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館等と共催で開催し、目録業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術を習得する機会とする。	目録システムに接続している機関で、現在図書目録の登録業務を担当している職員。	各共催大学図書館等	3日間
目録システム 地域講習会 (雑誌コース) 〔各大学図書館等共催〕		目録システムに接続している機関で、現在雑誌目録の登録業務を担当している職員。	各共催大学図書館等	3日間
ILLシステム 講習会	ILL業務担当職員に対し、システムの運用方法および端末操作等に関する知識・技術を習得する機会とする。	ILLシステムによる業務実施館および学術雑誌総合目録の協力館においてILL業務を担当している職員。	学術情報センター	2日間
ILLシステム 地域講習会 〔各大学図書館等共催〕	ILLシステム講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館等と共催で開催し、ILL業務担当職員がシステムの運用に関する知識・技術を習得する機会とする。	ILLシステムによる業務実施館および学術雑誌総合目録の協力館においてILL業務を担当している職員。	各共催大学図書館等	2日間

研修会等の種類	目 的	受 講 対 象 者	会 場	日 数
NACSIS-IR講習会	学術情報センターの情報検索サービス(NACSIS-IR)に関する知識・技術を習得する機会とする。	図書館等において代行検索業務に携わっている者および情報検索サービス利用者で、情報検索について初心者もしくは利用歴が1年未満の者。	学術情報センター	1日間
NACSIS-IR地域講習会 (各大学図書館等共催)	NACSIS-IR講習会の受講機会の拡大を図るため、学術情報センターで実施しているものと同等の講習会を各図書館・情報処理センター等と共催で開催し、情報検索に関する知識・技術を習得する機会とする。	図書館等において代行検索業務に携わっている者および情報検索サービス利用者で、情報検索について初心者もしくは利用歴が1年未満の者。	各共催大学図書館等	1日間
電子メールシステム講習会	NACSIS-MALLサービス等に関する知識・技術を習得する機会とする。	NACSIS-MAIL サービス等を初めて利用しようとする者。	学術情報センター	1日間

各研修・講習会の実施内容、実施期日、申込み方法および地域講習会開催会場等の詳細は、「平成9年度教育研修事業要綱」をご参照ください。「平成9年度教育研修事業要綱」は、平成9年4月に、大学・学会等の団体宛にお送りします。

### ○平成9年度 学術情報センター・シンポジウム

学術情報センターの事業や研究活動に関連するテーマについて発表等を行なう集会で、東京地区と関西地区で開催を予定しています。開催日時・会場・テーマ等の詳細は、改めてお知らせします。

### ○大学・学会等が主催する利用者講習への支援事業

学術情報センターの各種サービスに関わる紹介・講習等を、大学・学会等の内部研修や図書館の利用説明会の一環として企画される場合には、下記のような支援事業を行なっていますのでご利用ください。

#### 1. 支援内容

- (1) 講習用利用者番号の貸与
- (2) 講習用資料等の提供
- (3) 講習カリキュラムに関する相談
- (4) その他(準備、講師等)に関する相談

また、学術情報センターの講習室を会場として利用するご相談にも応じています。

#### 2. 対 象

- (1) 学術情報センター情報検索サービス(NACSIS-IR)に関するもの
- (2) 学術情報センター電子メールシステム(NACSIS-MAIL)に関するもの
- (3) 学術情報センター目録システム(NACSIS-CAT)に関するもの
- (4) 学術情報センターILLシステム(NACSIS-ILL)に関するもの

#### 3. 注意事項

事前(実施予定日の約1か月前まで)に当センターの担当係にご相談ください。  
 なお、利用者番号の貸与については、別途申請書を提出していただきます。

#### 4. 担当係・問い合わせ先

研修課指導第一係 電話 03-3942-6936 FAX 03-5395-7477

(研修課)

## 平成9年度サービス利用説明会開催予定

平成9年度も平成8年度に引き続き、本センターの各サービスを利用していない機関を対象として、下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会では、各サービスの紹介、概要説明、申請方法の説明などを行っています。これらの説明会はシステムの操作方法等の講習会ではありませんのでご注意ください。

### 1. 目録所在情報サービス利用説明会

#### (1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要
- ②目録所在情報サービスの概要
- ③学術情報センターとの接続方法
- ④利用申請方法
- ⑤研修の申込方法
- ⑥質疑応答・個別相談

#### (2) 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申 込 締 切
第1回	平成9年5月16日(金) 13:30～16:30	平成9年4月1日(火)	平成9年5月2日(金)
第2回	平成9年7月25日(金) 13:30～16:30	〃	平成9年7月11日(金)
第3回	平成9年10月3日(金) 13:30～16:30	平成9年8月1日(金)	平成9年9月19日(金)
第4回	平成10年2月6日(金) 13:30～16:30	平成10年1月5日(月)	平成10年1月23日(金)

#### (3) 対象機関

目録所在情報サービスに未接続の①国公立大学、②短期大学、③高等専門学校、④文部省および文化庁の施設等機関等、⑤国公立試験研究機関、⑥学術研究法人および学会、⑦都道府県・政令指定都市立図書館など

### 2. 情報検索・電子メール利用説明会

#### (1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要
- ②情報検索サービスの概要
- ③電子メールシステムの概要
- ④利用申請方法
- ⑤接続方法
- ⑥研修の申込方法
- ⑦質疑応答・個別相談

(2) 開催日時および申込締切

開 催 日 時		募 集 開 始	申 込 締 切
第1回	平成9年 6月 6日(金) 14:00～16:30	平成9年4月1日(火)	平成9年5月23日(金)
第2回	平成9年 9月 5日(金) 14:00～16:30	平成9年4月1日(火)	平成9年8月23日(金)
第3回	平成9年10月24日(金) 14:00～16:30	平成9年8月1日(金)	平成9年10月9日(金)

(3) 対象機関

①国公立試験研究機関，②学会など

※本サービスの普及や本センターとの連絡調整などを担当される職員の方を対象にしています（個人としての参加は出来ません）。

3. 学術情報ネットワーク加入説明会

(1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要
- ②学術情報ネットワークの概要
- ③学術情報ネットワークとの接続の準備
- ④学術情報ネットワークの加入申請手順
- ⑤研修の申込方法
- ⑥質疑応答・個別相談

(2) 開催日時および申込締切

開 催 日 時		募 集 開 始	申 込 締 切
第1回	平成9年 6月27日(金) 14:00～16:30	平成9年4月1日(火)	平成9年6月13日(金)
第2回	平成9年11月21日(金) 14:00～16:30	平成9年8月1日(金)	平成9年11月7日(金)

(3) 対象機関

学術情報ネットワークに未接続の①国公立大学，②短期大学，③高等専門学校，④文部省および文化庁の施設等機関等，⑤国公立試験研究機関，⑥学術研究法人および学会，⑦都道府県・政令指定都市立図書館など

なお、各回先着14機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、①参加希望の説明会名(目録所在情報サービス、情報検索・電子メール、学術情報ネットワーク)、②参加日(第○回○月○日)、③機関名、④機関の所在地、⑤参加者の職名および氏名(2名以内)、⑥連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用(加入)説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

(共同利用第一係)

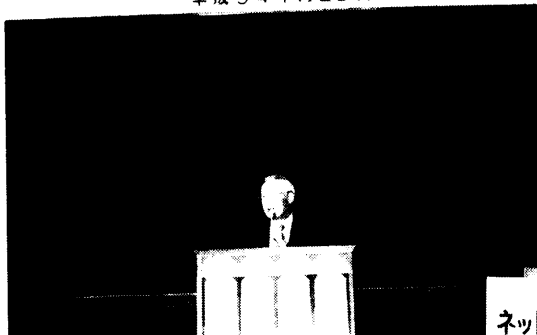
## 平成8年度学術情報センターシンポジウムの開催報告

平成8年度の学術情報センターシンポジウムは12月12日（木）大阪府立中央図書館ライティホールおよび1月23日（木）東京大学安田講堂で開催された。

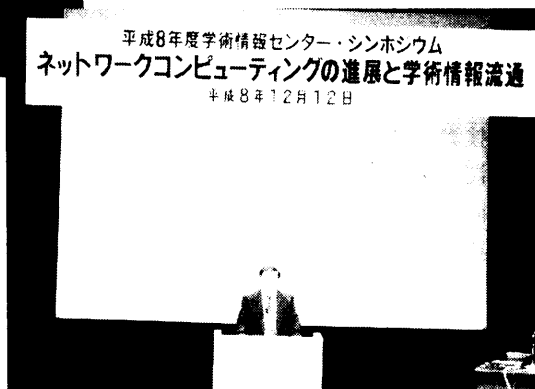
このシンポジウムは、学術情報センターにおける研究開発の成果や事業活動、あるいは学術情報システム全般に関わる動向等を中心に例年関西と東京で開催している。関西会場は307名、東京会場は532名といずれも過去最高の参加者となった今回のシンポジウムは、全体テーマを「ネットワークコンピューティングの進展と学術情報流通」と題し、最先端の話題であるネットワークコンピューティングやJavaを取り上げた。両会場とも同じ内容で、午前の部は主催者を代表して東京会場では猪瀬博学術情報センター所長の挨拶、関西会場では井上如学術情報センター副所長の挨拶に引き続き、寺田浩昭大阪大学教授の「ネットワークと新しい情報処理のハラダイム」および橋爪安達学術情報センター助教授の「ネットワークとオンライン出版」の講演が行われた。午後の部では、溝口文雄東京理科大学教授の「Javaの可能性とその事例」、片山紀生学術情報センター助手の「Javaによるデータベース検索」および宮澤彰学術情報センター教授の「Javaによる新目録システムインタフェース」の講演が行われ、最後に濱田喬学術情報センター教育研修部長の司会による質疑応答が行われた。会場をうめた聴衆もネットワークを介した実際のデモンストレーションなどに眼を奪われつつ、最先端のテーマに熱心に耳を傾け、いずれも盛会のうちに幕を閉じた。各講演の要旨は次のとおりである。

なお、本シンポジウムの講演要旨はWWWでも公開されている。ホームページアドレスは、<http://www.nacsis.ac.jp/nacsis.index.html>

### ネットワークコンピューティングの進展と学術情報流通 平成9年1月23日



所長



副所長



## ネットワークと新しい情報処理のパラダイム

大阪大学 大学院工学研究科教授 寺田 浩昭

マルチメディア、ネットワークなどの言葉が世界を駆け巡り、これら技術の社会への影響が論じられている。しかし、多くの議論は、単に光伝送技術を既存の電気通信ネットワークに取り込むという発想に立っているように見受けられる。次世代の通信・情報処理技術の探索的研究に従事している立場からは、光ネットワークを単なる電気通信ネットワークの延長上に位置づけることが、この技術の将来とその影響の評価を誤らせるのではないかと危惧している。このような立場から、新しい全光ネットワークの構想と情報処理パラダイムへの影響を中心に述べる。



電気通信ネットワークは、階層型電話網を軸として、世界的な規模のネットワークに成長した。電話の社会的機能は、変わることなく、今後も維持されるであろう。しかし、次世代の光ネットワークを探索する立場からは、従来の電気通信ネットワーク概念の原理的な見直しを基礎とする発想がより重要であると考えられる。

一方、情報処理技術は、極めて順調な発展を遂げているように見受けられるかもしれないが、ハードウェア技術、ソフトウェア技術共に、深刻な問題を内包している。

さらに、多くの知的活動の基礎となる文字や図形の認識のように、人間には簡単であっても、現在の機械には非常に困難であるといったような問題も多く残されている。しかし、通信環境の進化とともに、現状の情報処理技術の在り方に多少の変更を加えれば、少なくとも、人間の知的活動の周辺を埋める初歩的な援助程度は実現可能であろう。問題は、人間が実時間では処理しきれない速度で疎通する膨大な情報を人間がどのように効果的に咀嚼できるようにするかということに尽きる。

我々にとって身近な大学図書館を例にとり、こうした問題について、今後の可能性を考察する。

## ネットワークとオンライン出版

学術情報センター 研究開発部 助教授 橋爪 宏達

電子出版には数々の試みがあるが、それを学術出版を中心にし、出版社、図書館、学協会、研究者グループなどのものを概観する。現状を一言で述べれば、電子出版には、まだ決定的な手法はない、といえる。

1. 出版社による試みの代表的なものとしてオランダの出版グループ Elsevier を取り上げる。1995年から、1,100 誌の学術雑誌をすべてオンライン提供可能な状態にしている。
2. 図書館による試みでは、一部の図書館の先駆的な電子出版計画を除けば、この分野での最も大きな活動は、「OCLC電子オンラインジャーナル」"OCLC Journals Online"であったと言える。8 出版社の48の学術雑誌を電子出版した。



3. 学協会では、米国化学会など、論文誌の電子出版に先駆的試みが続けていたところもあるが、最近では米国コンピュータ学会 ACM が最も意欲的に取り組んでいる。
4. 学会の機能が「事前に価値のある学術情報を選択すること」すなわち情報の権威づけにあるとすると、それを否定するかもしれない活動として、物理学のプレプリント（査読前の論文）の流通サービスであるe-Print Archiveなどが試みられている。
5. これまで学術出版は SGML で編集されるものが多かったが、最近ではAdobe 社の PDF という形式に転換するものが増えている。形式的な全文検索より、内容表現の自由度をとる立場と言える。
6. 元来の電子文書の特長として、文字や図表以外のもの、たとえばコンピュータデータやコンピュータプログラムも内容に含まれることがあげられる。Javaもそのような技術発展の鍵となる技術である。電子回路の設計を例にとりて、将来の電子文書の可能性の一端を示す

## Javaの可能性とその事例

東京理科大学 理工学部経営工学科 教授 溝口 文雄

米国の社会学者G.ギルダーによると、“コンピュータは、さまざまな顔をもち、独自のサービスを提供するもの”と位置づけられる。例えば、Windows 95もそのような顔の一つであるが、ワープロや表計算が使えればそれで良いというものではない。こうしたコンピュータのさまざまな顔を作るためには、ネットワークに結びつけられたコンピュータがそれぞれのサービスを提供するような形態こそが今後の新しい方向であり、またそれが新しいパラダイムといえる。Javaはインターネット上で、こうした多様なサービスを容易に実現する新しいプログラミング言語として登場した。



ここではまず始めに、Javaの背景について、その開発から誕生までの歴史を技術的な側面を含めて紹介し、次に、Javaの特徴について、言語処理のメカニズム、構造、機能およびプログラムの実行方法等の技術的な側面を分かりやすく述べる。

続いて、その特徴を生かしたJavaによる分散コンピューティングについて、そのしくみを述べ、著者の研究や大学の授業における学生の作品等、幾つかの興味ある例をビデオおよびデモンストレーションを用いて紹介する。

いずれにせよ、世界中に分散しているコンピュータは様々なサービスを提供することができ、しかもそのサービスが特定のオペレーティングシステムに依存しないということが、いままでの情報処理と異なる点であり、そこがJavaの革命的なところであろう。

## Javaによるデータベース検索

学術情報センター 研究開発部 助手 片山 紀生

Sun Microsystemsによって開発されたプログラミング言語 Java は、インターネットでの利用が容易であることから、現在、分散環境におけるアプリケーションソフトウェアのプラットフォームとして注目を集めている。特に、WWW ブラウザの拡張機能として広く利

用されており、Javaを組み込んだホームページが次々に作られている。そのようなJavaを用いたアプリケーションの中で、特にデータベース検索に焦点を絞り、Javaの役割や効果について検討する。

Javaは、インターネットユーザが抱えていた問題点やニーズに対して、的確に答えることによって成功したプログラミング言語であると考えられる。その利点として、プラットフォームに依存しないプログラミング環境、インターネットとの高い親和性、プログラミング言語としての便宜性等があげられる。これらの点が支持されたこととJavaがフリーソフトウェアとして公開されたことが相まって、Javaは多くのユーザから幅広い支持を得ることができた。

現在では、ライブラリの機能拡張や様々な分野への応用が進められており、そのような試みのひとつとして、データベース分野へのJavaの応用が始まっている。その背景、データベースアクセスに関する技術開発、用途等について述べ、インターネットおよびイントラネットでの用途の例を併せて紹介する。

最後に、データベース検索のためのJavaアプレットの例として、著者が研究目的で作成したJavaアプレットUQI (Universal Query Interface) について説明する



## Javaによる新目録システムインタフェース

学術情報センター 研究開発部 教授 宮澤 彰

目録所在情報システムNACSIS-CATは全国の約400の大学、研究所等図書館が、日常的に目録作成を行いながら、どの図書館にどのような本が所蔵されているかを記録した総合目録データベースを構築していくシステムである。NACSIS-CATで構築された総合目録データベースは、参加各図書館相互の相互貸借、複写サービスのNACSIS-ILLで利用される他、情報検索サービスNACSIS-IRを通じて一般ユーザからも利用されている。

NACSIS-CATは大規模情報システムで84年から運転しているが、端末数の増加にともない、その時期その時期の最大級の大規模コンピュータを用いて運用してきた。現在は、いわゆるオープンシステム化の一環として新目録システム（新CAT）の開発を行っている。

旧CATと新CATとの最大の違いは、図書館側のUIPとのあいだのやりとりの仕方である。新CATでは、CATPという方式を用いるが、従来の方式にくらべUIP側の自由度が増す。目的に応じたさまざまなUIPの開発が可能になる。

新CATでは様々なUIPが実現できるが、総合目録データベースの品質を保つため、またセンターシステムの負荷が過大にならないようにするために、センターではUIP作成のガイドラインを公表している。また、UIP作成の一つの目安としてセンターでローカル情報を含まないオンライン目録作成部分だけのプロトタイプUIPをJavaを使って作成することにした。

ここでは、このプロトタイプUIPのデモンストレーションを行い、その特徴を実際に示す。

(研修課)



## 平成8年度会議などの報告

### 紀要編集委員会

平成8年度第1回紀要編集委員会が、平成9年1月14日（火）に開催され、次のような審議を行った。

#### 審議事項

1. 学術情報センター紀要第9号刊行スケジュールについて
2. 査読の分担について
3. 巻頭言執筆について
4. 最大ページ数の制限について
5. 学術情報センター紀要のA4版化について

---

学術情報センターニュース（第39号）

1997年3月14日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 〒112 東京都文京区大塚3丁目29番1号

電話 (03)3942-6937（直通）共同利用課 情報・資料係